

和仏法律学校講義録

下村, 宏 / 矢作, 榮藏 / 有賀, 長文 / 金井, 延 / 梅, 謙次
郎 / 杉本, 貞治郎

(出版者 / Publisher)

和佛法律學校

(巻 / Volume)

2-15

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

45

(発行年 / Year)

1899-09-10



法学部蔵書

和佛法律學綱要

每月貳回

第拾五號

目次

經濟學	（自一六頁）	法學士矢作榮藏
財政及政目次	（自二四一至二五八頁）	法學士有賀長文
財政學	（自七三頁）	法學士下村宏
經濟學	（自九三頁）	法學博士金井延
商法修正要領	（自四三頁）	法學博士梅謙次郎
商法總則	（自八九頁）	法學士杉本貞治郎

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4

學年始業、生徒募集

本校ハ一般ニ高等科ヲ卒業シタル志望者ヲシテ一科又ハ數科ヲ限リテ學力優等品行方正ノ者ニシテハ特ニ和佛法律學校學士ノ稱號ヲ附與シ從前優待生ノ者ヲ選拔シテ爲シ其學年免ス又校內圖書室ヲ設ケ校友生徒ヲシテ隨意他校ハ斯學ノ研究場トシテ實ニ整頓セルハ私立人學ナリ天下ノ講義ヲ擔任セシムル本義時間ヲ増加シ特ニ校長梅博士ノ如キハ民法商法ニ涉リ毎週六時間以上ノ講義ヲ擔任セシムル校ハ斯學ノ研究場トシテ實ニ整頓セルハ私立人學ナリ天下ノ講義ヲ擔任セシムル本校當講師ハ梅校長ヲ始め富井、岡野、富谷、河村、古賀、前田、法典調査會起草委員一木、寺尾、金井、松崎等ノ法科大學教授其他專門ノ學士數十名ナリ

學年ハ本月十一日開始ス志望者ハ此際至急入學ス可シ

本校講義錄ハ本年二月ヨリ其規模ヲ改メ今ヤ既ニ各部門共ニ十五號ヲ發行シ各科同レモ其半途ヲ經過シツアリ其新ナル講義ニ基キ文章ヲ簡明ニシ印刷ニ注意シ骨子一回ト雖モ期日ヲ過リシコトナク体裁整然トシテ實價亦大ニ便宜アルハ本校ノ私ニ世ニ誇ル所ナリ殊ニ學年ヲ逐フシノ迂ヲ爲サス部門ヲ分テ各目ノ必須ニ應ジ且ツ一年ヲ以テ全部ヲ卒業セシムル方ヲ採リ法學志林ハ本校講義錄ノ特色タラスハアラス若夫其完結ノ如キハ本校堅ク其責任ヲ取り方

明治三十二年九月 司法部指定 私立 和佛法律學校 文部省認可 東京市麴町區富士見六丁目十六番地

經濟學

法學士 矢作榮藏 講述
校友 守谷富之助 編輯

第三編 貨財交易論

第一章 貨財ノ交換

交換トハ合意ニ基ツキ一人カ他人ヨリ或貨財ヲ取得シ其對價トシテ其者ニ或貨財ヲ與ヘ相互ニ其經濟上ノ利益ヲ增加スルコトヲ以テ目的トスル行爲ナリ
(一) 交換ハ合意ニ基ツク行爲ナリ
甲ハ乙ニ或貨財ヲ與ヘ乙ハ又其對價トシテ甲ニ或他ノ貨財ヲ與ヘタルハ双方共ニ他ヨリ束縛ヲ受ケス各其自由ナル意志ノ合致ニ基ツキテ爲シタルモノナラサルヘカラス

註

公用徴収ハ交換ニアラス 公用徴収ハ一方ニ於テハ或貨財ノ所有權ヲ移シ他方ニ於テ之ニ對スル價格ノ賠償トシテ金錢ヲ與フルカ故ニ其形ニ於テハ交換ニ類似スル所アリト雖モ交換ノ如ク合意ニ基クモノニアラス 國家カ其命令權ノ作用ニヨリテ自己ノ意志ノミニヨリテ之行フモノニシテ所有者ノ同意ヲ要スルモノニアラサルナリ

(二) 交換ハ他人ヨリ或貨財ヲ取得シ其對價トシテ其者ニ或貨財ヲ與フル行爲ナリ

交換ニ於テハ當事者双方ヨリ貨財ノ移轉ナカルヘカラス而シテ一方カ他方ニ其所有ノ貨財ヲ與フルハ其者ヨリ或他ノ貨財ヲ得ンカ爲ナラサルヘカラス

(三) 交換ハ經濟上ノ利益ヲ増加スルコトヲ以テ目的トスル行爲ナリ

人カ交換ヲ爲スハ自身ニ取リテ効用少キモノヲ他人ニ與ヘ其人ヨリ更ニ効用多キモノヲ得ンカ爲ナリ例ヘハ自ラ之ヲ消費スル時ハ一定量ノ快樂ヲ感スヘキ自己ノ所有物ヲ犧牲トシテ更ニ多量ノ快樂ヲ感スヘキ物ヲ得テ快

樂享受ノ分量ヲ増加セントスルニ在リ而シテ此快樂享受ノ増加ハ即チ經濟上ノ利益増加ニ外ナラス

(四) 交換ハ當事者相互ニ其經濟上ノ利益ヲ増加スルコトヲ以テ目的トスル行爲ナリ

人ハ極メテ多數ノ貨財ヲ得ンコトヲ望ムモノナリ然レトモ一定ノ貨財獲得ノ情願ニハ一定ノ限界アリ其限界内ニ於テモ或貨財一定量ノ與フル快樂ノ分量ハ其初ニ於テ最モ多ク次ニ來ル所ノ同一量ノ與フル快樂之ニ次キ第三ニ到ル所ノ同一量ノ與フルモノ又之ニ次ク此ノ如ク貨財ノ分量累加スルニ從テ人ノ享受スル快樂ノ分量モ亦累加スト雖モ快樂増加ノ割合ハ貨財ノ分量増加スルニ從テ益減少シ其極其上ニ貨財ノ分量ヲ添加スルモ少シモ快樂ヲ増加セサルノ點ニ達スヘシ換言スレハ或種ノ貨財ヲ得タル分量増加スルニ從テ之ヲ得ンコトヲ欲スル強度ハ益減少スルモノナリ然ルニ人ハ種々ノ慾望ヲ有シ從テ極メテ多數ノ貨財ヲ得ンコトヲ望ムモノナリ故ニ人ハ或貨財ノ已得分量極メテ多ク新ニ同種ノ貨財ヲ取得シ之ヲ消費スルモ少シモ快

樂ヲ増加セサルニ至リタルトキハ勿論事コ、ニ至ラサルモ其貨財ノ一定量ヲ得タル後ハ更ニ同種ノ貨財ヲ得ルヨリ寧ロ他種ノ貨財ヲ得ンコトヲ望ムモノナリ前ニ述ヘタル如ク人ノ或貨財ヲ得ンコトヲ欲スルノ強度ハ同種ノ貨財已得ノ分量ニ關係スルモノナリ故ニ天然又ハ社會上ノ原因ニヨリ或二人ノ所有スル貨財ノ種類及分量ニ等差アルトキハ双方共ニ自己ノ所有物全體ヲ消費スルヨリハ兩者ノ間ニ物品ノ授受ヲ爲シ有無相通シ然ル後新ナル資產全體ヲ消費スル方遙ニ快樂ヲ享クル度増加スルコトアルヘシ是レ即チ交換ノ當事者ハ各自ノ利益ヲ得ンコトヲ目的トシ而モ利害ノ衝突ナク圓滑ニ取引ノ行ハル、所以ナリマーシャル氏經濟學第三編第三章參照

(注意) 人ハ己自ラ交換ニヨリ利益ヲ増加スヘシト信スレハ之ヲ爲スモノニシテ何人ヨリ之ヲ見ルモ交換カ双方ニ利益ヲ與フヘシト推測セララル、場合ニノミ行フモノニアラサルナリ例ヘハ勞動者カ餘分ノ賃銀ヲ得ンカタメニ其雇主ニ對シ過度ノ勞動ヲ供スルカ如キ昔時亞米利加ト亞弗利加トノ間ニ酒精ト奴隸トノ交換アリタルカ如キ局外者ノ眼ヨリ之ヲ見レハ

双方ニ經濟上ノ損害ヲ與フルモノナリト認メララル、場合ニモ猶交換ハ實行セラル、モノナリ又各交換者ノ享受スル利益増加ノ程度ハ相均シキヲ要セサルナリ例ヘハ飢饉ニ類シタル人カ其餘リアル毛皮一枚ヲ與ヘテ綿布ノミニテハ寒冷ヲ感スル人ヨリ其餘リアル米壹斗ヲ得タルカ如キ場合ニ於テハ双方共ニ交換ニヨリテ利益増加シタリト雖モ前者ノ享受スル快樂増加ノ分量ハ遙ニ後者ノ感スル快樂増加ノ度ニ超過スルモノナリトイフコトヲ得ヘシ

現今ノ經濟界ニ於ケル貨財交換ノ位置

昔時人ノ集リテ社會ヲ爲サ、ル時ニ當リテハ各人其要スル所ノ貨財ヲ生産シテ之ヲ消費シ全然孤立ノ生計ヲ立アタリ此時ニ於テハ貨財ノ生産ト消費トアリテ交換アルコトナシ然ルニ現今ノ産業社會ニ於テハ各人ハ自ラ自己ノ要スル諸種ノ貨財ヲ生産セスシテ唯一種ノ貨財ヲ生産スルニ止マルコト多シ而シテ其人ノ生産シタル貨物ハ更ニ第二ノ生産者ノ手ニ渡リ再ビ之ニ加工シテ第三ノ生産者ノ手ニ歸シ再ヒ之ニ勢力ヲ加ヘテ始メテ消費シ丁ルモノモ亦少カ

ラズ而シテ各人ハ互ニ其生産物ヲ交換シテ自己百般ノ需要ヲ充タスコトヲ得ルナリ此ノ如ク現今ノ社會ニ於テハ交換ト分業ト並ヒ行ハレテ各人相倚リ相助ケテ始メテ經濟上ノ目的ヲ達スルヲ得ルナリ而シテ交換益盛ナレハ分業次第ニ緻密トナリ分業愈密ナレハ交換モ亦之ニ從ヒテ頻繁ヲ加ヘ互ニ相助ケテ益生産業ノ繁榮ヲ來シ各人ノ享受スル快樂ノ分量ヲ増進スルモノナリ夫故ニ現今ノ産業社會ニ於テハ貨財交換ノ杜絶若クハ妨礙ハ直ニ經濟上ノ危機ヲ來スモノニシテ交換ノ増進ハ即チ各人經濟上ノ利益ヲ増加スル所以ナリ

交換ハ次ノ如ク之ヲ區別スルコトヲ得ヘシ

第一 當事者双方カ交換ニヨリ直接ノ需要ノ充足ニ宛ツヘキ貨物ヲ得ルト否トヲ基礎トスルトキ

(一) 單純交換若クハ物品交換 交換ニヨリテ當事者双方カ直接ニ需要ノ充足ニ宛ツヘキ貨物ヲ得タル場合例ヘハ北米印度人ト白人トノ間ニ行ハル、毛皮ト彈丸トノ交換ノ如シ

(二) 複雜交易若クハ賣買 交換ニヨリ一方ノ當事者ノ得タルモノハ直接ニ

需要ノ充足ニ宛ツヘキモノニアラスシテ更ニ他物ヲ得ンカ爲メニ手段トシテ用弗ルヘキ貨物即チ貨幣ナルトキ例ヘハ米ト貨幣トノ交換ノ如シ

第二 交換ノ各當事者カ自己ノ貨物ヲ其相手方ニ引渡スヘキ時ヲ基礎トスルトキ

(一) 普通若クハ即時ノ交換 交換ノ約束成立ト同時ニ當事者双方共ニ貨物ヲ相手方ニ引渡スモノヲ云フ

(二) 信用交換 當事者ノ一方カ後日相手方ノ履行ヲ得ンカ爲メ即時ニ貨物ヲ相手方ニ引渡ス場合ヲ云フ

(三) 定期取引 將來一定ノ時期ニ於テ相互ニ貨物ノ引渡ヲ爲スヘキコトヲ約束スル場合ヲ云フ

第二章 交換價值

凡ソ人カ交換ヲ爲スニ當リテハ其目的物タル貨財ヲ自ラ消費シテ得ラルヘキ快樂ノ程度ヲ知ルノ外各貨財ノ交換能力ヲ知ルコト必要ナリ誠貨財ノ所有者

ハ其貨物ヲ他人ニ與ヘ其代價トシテ其人ヨリ他ノ貨物ヲ受取ルコトヲ得ヘシ
此所有者ニ他物ヲ得セシムル能力ヲ名ケテ貨物ノ交換能力若クハ交換價值ト
稱ス而シテ貨物ノ交換能力ハ貨物ノ分量ニ從ヒテ等差アルハ勿論貨物ノ種類
ノ異ナルトキモ亦均シカラサルヲ常トス

現今ノ産業社會ニ於テハ人ハ多種ノ慾望ヲ有スルト同時ニ有無相通スルコト
頗ル容易ナルカ故ニ假ヘハ茲ニ人アリ甲種ノ貨物已得分量多キニ過クルヲ以
テ其貨物ノ一部ヲ以テ乙ノ貨物ト交換セントスルニ當リテハ獨リ甲ト乙トノ
快樂ヲ與フル分量ヲ比較スルニ止マラス甲ヲ以テ乙ト交換セズ丙若クハ丁ト
交換シテ之ヲ消費セハ乙ヲ得テ之ヲ消費シタルト其快樂ノ度何レカ強カルヘ
キカヲ考量スルニ至ルヘシ相手方モ亦乙ト甲トノ快樂ヲ與フル分量ヲ比較ス
ルニ止マラス乙ヲ以テ丙若クハ戊ト交換シテ得ル所ノ快樂ト甲ノ與フル所ノ
快樂トヲ比較シタル後ニアラサレハ決シテ乙ノ貨物ヲ捐テ、甲ヲ得ルコトヲ
決スル能ハサルナリ加之各當事者ハ或他ノ相手方ニ就キテ交換スルトキハ一
層大ナル對價ヲ得ルノ望アルカヲ探究スヘキナリ若シ之ヲ等閑ニ付スルトキ

ハ當事者カ交換ニヨリテ得ル所ノ利益大ニ減少スヘシ換言スレハ交換者ハ其
目的物タル貨物ノ交換能力ヲ知ルノ必要アルナリ而シテ愈交換實行セラレテ
甲ト乙ト交換セラレタルトキハ甲ノ價格ハ之ト交換セラレタル乙ノ分量ナリ
ト云フナリ乙ノ方ヨリ見レハ乙ノ價格ハ之ト交換セラレタル甲ノ分量ナリ例
ヘハ牛一頭ト馬一頭ト交換シタルトキハ牛一頭ノ價格ハ馬一頭ナリ馬一頭ノ
價格ハ牛一頭ナリ而シテ貨幣ヲ以テ示サレタル價格ハ特ニ代價又ハ物價ト稱
ス例ヘハ馬一頭ノ價格ハ金百圓ナリトイフヘキ場合ニ馬一頭ノ代價ハ金百圓
トイフナリ

一定ノ時ト所トニ於テ或貨物ノ一定量ハ何故ニ他物特定ノ分量ト交換セラレ
ソレヨリ多量若クハ少量ノモノト交換セラレサルカノ理由ヲ示スモノヲ價格
ニ關スル法則トイフ今茲ニ此法則ヲ述フルニ先チテ豫メ二三ノ語ノ意義ヲ確
定シ置クノ必要アリ

(一) 需要ト供給

需要トハ購買スル實力アル人ノ欲スル或貨物ノ分量ヲイフ

供給トハ一定ノ時期ニ販賣ノ爲ニ提供セラレタル或貨物ノ分量ヲイフ

(二) 生産ノ實費及生産費

生産ノ實費トハ生産ノ爲ニ消費セラレタル資本ノ貯蓄ニ必要ナル節慾ト之

ニ與リタル勢力トイフ

生産費トハ生産ノ爲ニ消費シタル貨財ト使用シタル勢力ニ對シテ仕拂ハレ

タル貨幣トノ高ヲイフ

(三) 市場ト市價

市場トハ賣主ト買主トノ交通自由自在ニシテ同一ノ貨物ノ代價カ容易ニシ

テ且迅速ニ均一ニ歸スヘキ傾向ヲ有スル地方全體ヲイフ

市價トハ一定ノ時期ニ市場ニ於テ取引セラレ、物ノ代價ヲイフ

價格ニ關スル法則 物價ハ需要ト供給トノ平均ニヨリテ定マルモノナリ

何レノ時何レノ市場ニ於テモ賣主間及買主間ニ競争アリテ賣主ノ賣ラント欲

スル高ト買ハント欲スル分量トカ相一致スルカ如キ物價ニテ取引セラレ、モ

ノナリ若或一部ノ賣主カ賣主ノ賣ラント欲スル高カ遙ニ買手ノ買ハント欲ス

ル額ヲ超過スルカ如キ價格ヲ要求スルトキハ買主ヲ買ハント欲スル分量大ニ
減少スヘシ從テ賣主ノ中ニハ賣却ノ機會ヲ失ハシコトヲ恐レテ價ヲ低クシテ
賣却セシコトヲ勉ムルモノアルヘキヲ以テ物價ハ速ニ低落スヘシ物價愈低落
スレハ之ニ伴ヒテ買主ノ買ハント欲スル額次第ニ増加シ賣主ノ賣ラント欲ス
ル分量ハ減少シ遂ニ兩者ノ分量平均スルニ至ルヘシ然ルニ物價一層下落スル
トキハ賣主ノ賣ラント欲スル分量カ買主ノ買ハント欲スル額ヨリ遙ニ減少ス
ルニ至ルヘシ是ニ於テカ買主中ニハ買入ノ機會ヲ失ハシコトヲ恐レテ更ニ高
價ニ買入レンコトヲ勉ムルコトアルヘク從テ物價ハ直ニ増進スヘク物價次第
ニ騰貴スルニ從ヒテ賣主ノ賣ラント欲スル分量ハ逐次遞減シ再ヒ兩者ノ分量
相均シキニ至ルヘシ此ノ如ク賣主相互間ト買主相互間トノ競争ニヨリテ物價
ハ賣主カ賣ラント欲スル分量ト買ハント欲スル分量トカ相一致スル點ニ於テ
定マルモノトス是レ即チ物價ハ需要ト供給トノ平均ニヨリテ定マルモノナリ
トイフ所以ナリ

物價ハ需要供給ノ平均ニヨリテ定マルモノナルカ故ニ供給ニ變化ナクシテ需

要増加スルトキハ需要者間ノ競争ヲ惹起シ物價上騰ス之ニ反シテ需要減少スルトキハ供給者間ノ競争ニヨリテ物價下落ス又同様ノ理由ニヨリ需要不變ニシテ供給増加スルトキハ物價下落シ供給減少スレハ物價騰貴スルモノナリ此ノ如ク物價ノ變動ハ需要供給ノ變動ニ基因スルモノナルカ故ニ物價變動ノ理ヲ知ラント欲セハ勢ヒ需要供給ノ變動原因ヲ究メサルヘカラス

需要變動ノ原因ノ主ナルモノハ左ノ如シ

- (一)代用品ノ價格ノ變動 或貨物ト代用セラルヘキ他ノ貨物ノ價格騰貴スルトキハ其貨物ノ需要ヲ増加ス此事例ハ株式市場ニ於テ特ニ顯著ナリ略相均シキ危險ト利益トヲ有スルモノハ略相等シキ價格ヲ保ツヲ常トス例ヘハ如何ナル理由ニテモ公債ノ價格騰貴スルトキハ市公債ノ需要ヲ増加スルノ傾向アリ換言スレハ以前ヨリハ高價ニ市公債ヲ購求スルモノアルニ至ラン
- (二)收入ノ變化 人カ或貨物ヲ買入レント欲スルハ消費スルコトヲ得ヘキ貨幣ノ分量ニ關係スルモノナリ國民中ノ一階級又ハ一個人ニテモ其收入増加スルトキハ以前ヨリ多量ニ或貨物ヲ需要スルモノナリ例ヘハ日清戰爭後軍人

カ種々ノ貨物ヲ多ク買入レタルカ如シ

- (三)貨物ノ効用ノ變動 或貨物ノ新シキ用途ノ發見又ハ流用道德法律ノ變遷等ニヨリテ之ヲ買ハント欲スル人ノ認識スル貨物ノ効用ノ分量ニ變動アリタルトキヲイフ

供給變動ノ原因ハ需要變動ノ原因ニ同シ例ヘハ(一)或貨物ニ代用セラルヘキ貨物騰貴スルトキハ以前ヨリ高價ニアラサレハ其貨物ヲ賣却スル者ナカルヘク(二)賣主ノ收入減少シ貧窮ニ陥ルトキハ其以前ニ比スレハ低價ニテモ其所有物ヲ賣拂ハント欲スルニ至ルヘシ(三)或貨物ノ流行以前ヨリ盛ナルトキハ賣主ハ舊日ノ指値ニ應セサルニ至ラン之ヲ要スルニ或貨物ヲ供給スルトイフハ之カ對價ヲ需要スルモノナリトイフニ等シキヲ以テ供給變動ノ原因ハ需要變動ノ原因ト同様ナリトイフヲ得ルナリ

物價ハ需要供給ノ變動ニ從ヒテ變動シ需要供給モ亦種々ナル事情ニヨリテ變動スルカ故ニ物價ハ常ニ動搖シテ其歸着スル所ナキカ如クナレトモ仔細ニ之ヲ觀察スルトキハ其動搖ハ或限界内ニ行ハル、ノミナラス格外ナル高價若ク

ハ低價ハ通例永續セスシテ常ニ其間ニ存スル或一種ノ價格ニ歸向セントスルノ傾向アルモノナリ此或一種ノ價格ヲ名ケテ正常價格 (normal price) トイフ
貨物ノ正常價格ハ自由制度ノ下ニ生産セラル、モノト專業ノ下ニ生産セラル
ルモノトノ間ニ區別アリ

(甲) 自由制度ノ下ニ生産セラル、貨物ノ正常價格

自由制度ノ下ニ引續キ生産セラレ消費セララル、貨物ノ正常價格ハ其生産費
ニヨリ定マルト一概ニ論スルモ大ナル誤リナシト雖モ猶精細ニ之ヲ區別ス
ルヲ至當トス

(一) 貨物ノ供給ヲ増加スルモ其分量ノ各單位ニ對スル生産費増加セサルモノ
此種類ノ貨物ノ正常價格ハ生産ニヨリテ定マルモノナリ若シ市價カ生産
費以下ニ低落スルトキハ何人モ損失ヲ甘ンシテ生産ヲ爲ス者ナキヲ以テ
生産者ハ其生産ヲ減少シ若クハ生産ヲ廢止スヘシ然ルトキハ供給減少ス
ルカ爲ニ市價ハ再生産費ニ相當スル程度マテ騰貴スヘシ之ニ反シテ市價
カ生産費ヲ超エテ騰貴スルトキハ生産者ハ餘分ノ利益ヲ得ンカ爲ニ生産

高ヲ増加スヘシ然ルトキハ供給増加スルカ故ニ市價ハ再々生産費ト等シ
キ點マテ下落スヘシ故ニ曰ク此種ノ貨物ノ正常價格ハ生産費ニヨリテ定
マルモノナリト

(二) 貨物ノ供給ヲ増加スルトキハ其分量ノ各單位ニ對スル生産費モ亦増加ス
ルモノ

此種ノ貨物ハ引續キ且永久ニ等差アル生産費ニヨリ生産セラル此場合ニ
於テハ正常價格ハ需要ヲ充タスニ必要缺クヘカラサルモノニシテ然モ最
多額ノ費用ヲ要シタル貨物ノ部分ノ生産費ニヨリテ定マルモノナリ此時
ニ當リテハ消費者ハ最高價ニ生産シ而モ損失ヲ受クルコトヲ欲セザル生
産者ニ就テモ其貨物ヲ購求セサルヲ得サルノ境遇ニ在ルヲ以テ廉價ニ生
産シタルモノモ之ニ乗シテ其價格以下ニハ之ヲ賣却セサルヲ常トスレハ
ナリ

(乙) 專業ノ下ニ生産セラル、モノ

此種ノ貨物ノ正常價格ハ生産者ニ最多量ノ利益ヲ與フル點ニヨリ決定セラ

ル、モノナリ而シテ其價格ハ生産費以上ニ在ルモノナリ專業者ハ他人ノ利益ノ爲ニ生産スルニアラサルヲ以テ生産費以下ニ賣却スルヲ好マサルヘシ唯生産費以下ニ賣却スルヲ欲セサルノミナラス獨占ノ地位ヲ利用シ其以上ニ賣却スルコトヲ勉ムヘシ然リト雖モ其價格餘リニ高價ニ失スルトキハ大富豪若クハ奢侈者ニアラサレハ之ヲ需要スル者ナク從テ其賣揚總代ヨリ生産ル利益ハ却テ少ナカルヘク又生産費ト略々同様に價格ニテ賣却スルトキニ於テ唯業務ノ繁忙ナルノミニシテ其利益ノ總量甚タ多カラサルヘシ故ニ專業者ハ需要者ノ事情ヲ察シ貨物ノ各單位ニ對スル價格ヲ前者ヨリ低クシ後日ヨリハ高クシテ自己ノ得ル所ノ利益ノ總額最も多キ點ニテ賣却スルコトヲ勉ムルモノナリ專業者ヲシテ其爲ス所ヲ恣ニセシムルトキハ總テノ消費若クハ對シテ同一ノ市價ニテ賣却スルヨリハ消費者ノ實力若クハ嗜好ノ如何ニヨリテ各別ノ代價ヲ要求スルトキハ益多量ノ利益ヲ收ムルコトヲ得ヘキコトヲ發見スルニ至ラン例ヘハ鐵道旅客ノ等級別ノ如キハ幾分カ此性質ヲ加味シタルモノナリトイフヲ得ヘキカ如シ專業者ハ消費者ノ如何ニヨリ平

以テ其收益ヲ明知スルコトヲ得可キモ其他ノ營業ニ於テハ殆ント之ヲ知ルノ途ナキナリ而シテ今其課税ノ方法ヲ研究センニ所得税ニ於ケルカ如ク義務者ノ義務額ヲ定ムルニ義務者ヲシテ申告セシムルト政府ノ之ヲ推定スルトノ二方法アリ家屋税ニ於テハ家屋ノ所有主ト借主ト相對照シ利子税ニ於テハ債權者ト債務者ト相對照シテ以テ其眞實ノ額ヲ知ルコトヲ得可キモ營業税ニ於テハ此ノ如キ方法アルコトナク又唯義務者ノ報告ノミヲ以テハ未タ十分ナリトス可カラス故ニ義務者ノ申告ヲ待チ而後ニ他ノ方法ヲ以テ之ヲ確ムルノ外ナカル可シ

營業税ヲ課ス可キ收益トハ現年度ノ豫定收益ニモアラス又前年度ノ確定收益ニモアラス實際去收益ノ平均額ヲ以テ其目的トス各營業者ノ眞正ノ收益ヲ知ランカ爲メニ用弗ル所ノ方法ハ外部ノ標證ニ依テ之ヲ推定スルニ在リ今其標證ノ主タル者ヲ舉クレハ

第一 固定資本額例ヘハ或製造場ノ蒸氣機ノ馬力ヲ見テ以テ其收益ヲ推定セ又水車ノ數或ハ鐵道會社ニ於テハ鐵道ノ延長馬車會社ニ於テハ馬ノ頭

數航海業ニ於テハ船舶ノ噸數等ヲ見テ以テ之ヲ推定スルカ如シ

第二 流動資本額例ヘハ職工數其賃銀額ノ如シ

第三 取引ノ大小例ヘハ旅宿業ニ於ケル宿泊人數鐵道會社ニ於ケル乘客及荷物ノ噸數ノ如シ

資本額及取引ノ大小ハ其趣ヲ同ウスルモ地方ノ狀況ニヨリ其收益ニ多少ノ差異ヲ生スルコトアリ又營業中ニハ地方的ノモノアリ十分之ヲ斟酌セサル可カラス佛國等ニ於テハ地方ヲ八級ニ區別シ第一級ハ住民十万以上ノ地方トシ住民二千以下ヲ第八級トシ其階級ニヨリ稅率ヲ異ニス例ヘハ第八級ニ於テ二十五フランノ營業稅ヲ納ム可キ營業ハ第一級ニ於テハ三百フランヲ納メサル可カラス而シテ巴里ヲ例外ニ置キ四百フランヲ徵收スルモノトセリ

營業稅ヲ徵收スルニ當リ前示三個ノ標證ニ依リ之ヲ推定スルト同時ニ各地方ノ盛衰ニヨリ之カ階級ヲ設クルハ其他ノ各國ニ於テハ同様ニシテ普國ニ於テハ千八百二十年ノ條例ニ依リ地方ヲ大市中市小市ノ三級ニ分テリ澳國ニ於テハ千八百四十二年ノ法律ヲ以テ地方ヲ五級ニ分テリ而シテ此等ノ各標識ハ決

シテ之ヲ完全ナルモノト云フ可カラス故ニ此等ノ標證ニ依リ推定シタル收益ハ必スシモ誤トキヲ保セス且又此等ノ標證ニ依テ知ル所ノ者ハ各營業ノ純收益ヨリハ寧ロ總收益ナリ而シテ納稅能力ヲ定ムルモノハ總收益ニ非スシテ純收益ナルヲ以テ此等ノ標證ヨリ知リ得ル所ノモノハ其知ルコトヲ要スル所ノモノニ非ス又各種ノ營業ノ收益ヲ相互ニ比較對照スルニハ此等外部ノ標證ハ其用ヲ爲スニ足ラス唯同一事業ノ各營業者ヲ比較對照スルニ足ルノミ而シテ或場合ニ此事業ノ收益ヲ推定スルニハ何レノ標準ヲ取ル可キヤハ其各事業ニ付テ判定スルノ外ナシ

營業稅ヲ課スルニ當リ其真正ノ收益ヲ知ランカ爲メニ各國種々ノ方法ヲ案出セリ今其一例ヲ舉クレハ佛國ニ於テ曾テ試ミタル方法ハ既ニ廢業シタル營業者ヲシテ現ニ營業セル者ノ收益ヲ計ラシメ國家之ニ相當ノ監督ヲ爲スニ在リ然レトモ弊害ヲ生シ未タ其目的ヲ達スルニ足ラサルナリ故ニ今日各國ニ於テ執ル所ハ前示三個ノ標證ニ依リテ收益ヲ推定シ且地方ニヨリ之カ階級ヲ定ムルニ在リ

第四十節 間接税ト直接税トノ比較一斑

所謂間接税ハ直接税ト同シク各義務者ノ財産ノ一部分ニ課スル所ノモノナリト雖モ直接税ハ收益トシテ財産ニ附加スル時ニ際シテ課セラレ間接税ハ消費トシテ財産ヲ減少スル時ニ課セラル是ウツペンバハ氏ノ所説ナリ而シテ此間接税ナルモノハ曾テ示シタル租税ノ三個ノ條件ニ對シテ如何ナル關係ヲ有スルカラ觀察スルニ左ノ如シ

第一 租税ハ比較的相當即チ物質上ノ正當ナルコトヲ要ス而シテ間接税ハ凡ソ各人ノ消費享樂ハ其實力收入ニ相應シテ之ヲ爲スモノナリトノ推測ニ基キテ之ヲ賦課スルモノナリ然レトモ生活必需品例ヘハ米鹽等ニ課税シタルトキハ其間接税ニハ此ノ如キ推測ヲ適用スルコト能ハサルハ論ヲ俟タス故ニ此等ノ必需品ニ課税スルハ今日ノ間接税ノ原則ニ反スルモノナリ然ルニ若シ此等ノ生活必需品ニ課税セシカ之カ爲メニ普通貨銀ニ相當ノ騰貴ヲ來タス可シ通常其騰貴ヲ見ルニハ多少永キ時間困難ヲ感スルヲ例トスト雖モ此騰貴ハ唯其平均額ニ係ルノミニシテ例ヘハ兒子ノ多キ者多病ナル者又ハ當時雇使セラレ

サル者等ハ必需品ニ課税セラレタルノ故ヲ以テ之ニ相當シテ其貨銀ヲ高ムルコトヲ得サルカ故ニ遂ニ困難ナル他位ニ陷ラサルヲ得ス千七百七十八年和蘭國ニ於テ生活必需品ニ間接税ヲ課シタル時ニ當リテ日雇勞力者ノ賃銀ノ三分ノ一ハ租税ノ爲メニ吸收セラレタリト云ヘリ蓋シ當時酒類ノ租税ニ其上等品ト下等品トヲ區別シ之カ税率ニ差別ヲ立テサリシカ爲メニ比較的ニ勞力者ノ負擔ヲ重カラシメタルモ亦其一因ナリトス

又貧民ハ通例其必需品ヲ小買スルモノナリ故ニ其賣手カ前納租税ヲ移轉スルニ當リテ其端數ヲ生セサル様之ヲ計算スルヲ以テ比較的ニ多クノ租税ヲ負擔セサルヲ得サルノ結果ヲ生ス可シ又消費税ノ場合ニハ生活ノ最低額以下ノ收入ヲ有スル者ニ免税スルコトヲ得ス一般ニ同一ノ租税ヲ負擔セシムルカ故ニ此種ノ租税ヲ起ストキハ時々施與ヲ爲サハル可カラサルコトアリ普國ニ於テ千八百四十八年ノ法律ヲ以テ當時尙ホ生活必需品ノ課税ヲ存スル市ニ於テハ其收入額ノ三分ノ一ヲ職業ナキ勞力者ヲ雇用スル爲メニ使用スヘキ旨ヲ規定シタリ是皆間接税ヲシテ其比較的相當ノ原則ニ適合セシメントスルニ外ナラ

ス然レトモ此ノ如クスルトキハ下級ノ人民ハ國家ニ依頼スルノ念慮ヲ生スルノ弊ナキ能ハサルナリ
奢侈品ニ課スル租税ト雖モ其地位ニ相當スル所ノ需要品ニ付テハ兒子多キ家族ノ長ニ最モ重カル可シ「マカロツク」氏ノ言ニ曰ク「英國ニ於テ課税シ得ル必要品ハ醬油砂糖及茶ノ三ノモノナリ」ト
富者ニシテ必スシモ富者ニ限ラス其收入ノ一部分ヲ資本ト爲スニ於テハ此資本ニ供セラレタル部分ハ消費税ノ賦課ヲ免カルハモツナリ故ニ通常間接税ニ代フルニ收入税ヲ以テスルトキハ下等人民ハ爲メニ利益シ之ニ反シテ富者ノ爲メニハ不利益ナルコトハ殆ント疑ヲ容レサルナリ夫レ然リ然リト雖モ全体ニ付テ之ヲ論スルトキハ間接税ハ勤儉節約者ニハ割合ニ輕ク之ニ反シテ浪費者ニハ割合ニ重キモノナルヲ以テ國民經濟上大ニ贊稱ス可キモノト謂ハサル可カラス即チ間接税ハ國民ノ勤儉節約ヲ促カシ其浪費ヲ制スルノ好結果ヲ生ス可シ故ニ若シ缺ク可ラサル生活ノ必要品ニ課税スルコトナクシテ彼ノ「スタイン」博士ノ所謂享樂税ノミニ限ルトキハ比較的適當ノ原則ニ適合スルノミナ

ラス彼ノ不完全ナル直接税タル營業税ニ優リテ國民經濟上ニ善良ナル結果ヲ生ス可シ然レトモ通常人ハ間接税ヲ管ニ其徵收ノ方法ニ依テノミナラス例ヘハ門戸税境界税ノ如シ又其目的物ニ依リテ之ヲ區別ス故ニ享樂品ニ課税スルニハ成ル可ク總テノ享樂品ニ通シテ遺漏ナク課税セサル可カラス例ヘハ茶ト麥酒トヲ飲用スル者ハ大抵「コヒー」ト酒トヲ飲用セサルモノナリ故ニ今茶ト麥酒トニ課税スルトキハ「コヒー」及酒ニモ亦同シク課税セサル可カラス國庫ノ收入ヲ増加センカ爲メニ或ル必要ナラサル享樂品例ヘハ烟草ニ重ク課税スルハ恰モ喫烟者ニ重キ罰金ヲ科スルカ如シトノ攻撃ハ或ル一ノ享樂品ニ偏シテ課税スルニ由ルモノニシテ若シ總テノ享樂品ニ均シク課税スルニ於テハ此非難ハ自ラ其跡ヲ絶ツ可シ蓋シ總テノ享樂品ノ需要ハ其納税力ヲ表スルモノナリト云フト雖モ各人ノ享樂品ノ需要ハ常ニ同一ナラス甲ハ或ル享樂ニ慣レ乙ハ他ノ享樂ヲ專ラトスルヲ以テ總テノ享樂品ニ課税スルニアラサレハ未タ以テ正當ナリト謂フ可カラサルナリ
之ヲ大體ノ上ヨリ云フトキハ消費税ヲ課スル順序ハ左ノ如クナル可シ(第一鹽

ノ如キ生活上必要缺ク可カラサル物ハ成ル可ク免稅ト爲ス可シ(第二)全ク害ナキ享樂品例ヘハ「茶、コレ」砂糖ノ如シハ極メテ輕ク課稅シ(第三)比較的ニ無害ナル物ハ稍々重ク課稅シ(第四)比較的ニ有害ナル物ハ更ニ一層重ク課稅ス可シ

第二 租稅ハ法律上正確ナラサル可カラズ間接稅ハ此要件ニ付テハ直接稅ニ優ルコト數等ナリ故ニ自由ヲ愛スル國民ニシテ且未タ曾テ貧民多數ノ爲メニ困難ヲ經過セサル所ノ國民ハ大抵直接稅ヨリモ間接稅ヲ撰擇ス蓋シ直接稅ノ場合ニハ其義務調査ノ爲メニ官吏ノ干涉ヲ感シ且其義務ハ多クハ官吏ノ判斷ニ因リテ定マルモノト感スルヲ以テナリ之ニ反シテ間接稅ハ自由制度ヲ相連絡シ自治ノ主義ニ適合ス何トナレハ間接稅ハ直接稅ノ如ク費用煩勞多キ官吏ノ調査ヲ要セスシテ各義務者自ラ課稅ヲ負擔ス語ヲ易テ之ヲ言ヘハ義務者ハ已レノ欲スルトキニ之ヲ負擔スルモノナレハナリ英國ニ於テハ「チャールズ」第二世ノ時既ニ輿論ハ間接稅ヲ可トシ爾後漸次直接稅ヲ廢シテ間接稅ト爲スニ至リタリ又同一ノ理由ヲ以テ諸威國ニ於テモ千八百十六年以來直接稅ヲ減シテ千八百三十六年ニハ一種ノ直接稅ヲモ存セサルニ至レリ

直接稅ハ其義務ノ調査方法ニ種々ノ短所アリ且爲メニ多クノ費用ヲ要ス又彼ノ收益稅ノ如キハ唯其平均收益ニ課稅スルノミニシテ實際ノ納稅能力ニ應セズ取得稅ハ客觀的納稅力ヲ見テ之ニ課稅スルノミ然ルニ間接稅ニ於テハ其義務ヲ調査スルノ煩勞ナク費用ナク且主觀的ニ課スル者ナリ又彼ノ直接稅ニ往來必要トスル所ノ強迫手段ハ間接稅ノ場合ニハ殆ント其必要ナク或ハ少シトス何トナレハ間接稅ハ義務者ノ之ヲ欲スルトキニ之ヲ支拂ヒ其租稅ノ一般ニ重キニ從ヒ其額ヲ減スルノミナレハナリ故ニ勢力強盛ナラサル政府ハ新ニ直接稅ヲ課シ又ハ其稅率ヲ増加スルヨリハ新ニ間接稅ヲ起シ又ハ増稅スルヲ以テ容易ナリトス匈牙利國ノ財政ヲ見ルニ千八百六十九年大藏大臣力議院ニ提出シタル豫算案ニ依レハ直接稅ノ收入總額ハ五千四百七十四万四千「フロリン」ルニ其實際ノ收入額ハ四千八百八万一千「フロリン」ニ過キサリ然ルニ間接稅ハ其實際收入額ノ豫算額ニ超過スルコト五百八十二万一千「フロリン」ナリシト云フ又墨西哥國ニ於テ數度ノ革命ヲ起シタルハ主トシテ直接稅ノ過重ナリシニ因レリト云フ斯ノ如ク間接稅ハ直接稅ニ比シテ利益多シト雖モ此等ノ利益

ハ生活上缺ク可カラサル必需品ニ課税スルニ因リテ消滅ス可シ會テブルンブルグニ於テ重キ鹽税ヲ課スルヤ貧民ハ通常ノ鹽ヲ用非ス衛生上有害ナル獸鹽ヲ食シタリト云フ「セーフレ」氏曰ク此ノ如キ間接税ハ惡シキ人頭税ニ等シト

第三 租税ハ租税其物ノ爲メニ人民ニ被ラシムル負擔ノ外ニハ成ル可ク其負擔ヲ少ナカラシム可シ此原則ニ關シテハ間接税ハ直接税ニ比スレハ多費ナリ佛國ノ革命前ニハ徵收費ハ直接税ニハ六分間接税ニハ一分四分ナリキ又英國ニ於テハ千八百五十八年ノ國產税ハ其徵收費ハ四分八二海關税ハ三分六合計八分四二ニシテ直接税ハ僅カニ四分〇九ニ過キス又普魯西ニ於テハ千八百八十四年度ノ總計ニ依レハ間接税九分五直接税七分ナリシト云フ以テ間接税ニ於テハ直接税ヨリモ多クノ徵收費ヲ要スルコトヲ知ル可シ是蓋シ間接税ノ性質ヨリ生スル自然ノ結果ナリトス間接税ヲ課スル方法ハ財産ノ一涓滴ニモ課税スルモノナレトモ直接税ニハ比較的ニ集團セルモノナリ是間接税ニ費用ト煩勞トノ多クヲ要スル所以ナリ故ニ一般ノ原則トシテ間接税ハ無數ノ小消費

的行爲ニ課スル所ノ間接税ノ徵收費ハ平均收益ノ長キ間ノ或物ニ唯一度課スル所ノ直接税ニ比スレハ多費ヲ要ス此間接税ノ徵收方法其負擔者ニ取リテハ便宜ナリトスト雖モ之ヲ支拂フ者ニ取リテハ種々ノ煩勞ヲ來シ或ハ生産事業ヲ調査監督スルカ爲メニ其事業ノ進歩ヲ阻害スルコトアリ或ハ又物品ノ運轉ヲ境界ニ於テ妨害スルコトアリ

又德義上ノ關係ニ於テハ間接税ハ詐僞ヲ誘導スルノ結果ヲ生スルモノニシテ之ヲ收益税又ハ所得税ニ比スレハ遙カニ大ナリト謂ハサル可カラス殊ニ間接税ニ付テモ海關税ノ如キハ之ヲ徵收スル場所數ヶ所定マリ居ルヲ以テ之ヲ脱スルヲ却テモ通例ノ事ト爲スニ至レリ又其冒スヘキ危險ニ對シテハ保險事業成リ殊ニ他事ニ付テハ注意深ク又有力ナル商人ト雖モ海關税ヲ通脱スルヲ通常ト爲セリ米國ニ於テハ第一流ノ銀行ト雖モ二割ノ保險料ヲ出スニ於テハ沒收物件ヲ保險スト云ヘリ又ナボレオン第三世ハ沒收シタル外國輸入品ヨリ毎年凡ソ一億五千万フランヲ得タリト云フ然レトモ是其脱税ノ一部分タルニ過キサ

々平均「ターレ」ヲ賃銀ヲ得可ク此等ノ勞力者ハ晝間眠臥シ夜間勞働セリト云フ此ノ如キ脫税ハ國民ノ德義ニ反スルコトハ言フ俟タス一方ニ於テハ國庫ノ收入ヲ著シク減少シ一方ニ於テハ正當ナル商人ヲシテ市場ノ競争上少ナカラサル困難ヲ感セシメ其自由ノ競争ヲ妨クル結果ヲ生ス可シ又脫税者ニ取リテモ此危險ヲ冒シタルカ爲メニ富ムコトハ極メテ稀有ノ事實ナリトス然レトモ此脫税ハ到底禁止シ難キ事情アリ通常下級官吏ハ脫税ニ對シテ國家ト反對ノ利益ヲ有スルコト多シ即チ脫税ニ乘シテ私利ヲ謀ルコト是ナリ曾テ或ル國ニ於テハ沒收物ノ價格ノ一部分ヲ配當スルコト、シ以テ官吏ノ脫税監督ヲ獎勵セントシタルトモ其目的ヲ達セサリシト云ヘリ又脫税ニ類シテ其方法ノ異ナルモノアリ即チ物品ヲ詐ルコト是ナリ全體ニ付テ之ヲ論スレハ間接税ハ人口ノ稠密ナル富度ノ豐裕ナル市ニ於テ徵收スルニ適當ナル租税ニシテ即チ開明ノ程度ノ高キ國ニ於テ始メテ適當ナルモノニ反スル國ニ於テハ不適當ナリトス路易十世曾テ言ヘルコトアリ曰ク「間接税ハ市ニ適シ直接税ハ地方ニ適ス」ト蓋シ直接税ハ財産ニ課スルモノナルモ

間接税ハ多クノ消費者カ多クノ消費ヲ爲スニ非サレハ收入多カラサレハナリ曾テ「コルシカ」屬ニ於テ海關稅ヲ徵收セシニ其收入ハ十萬一千九百十七「フラン」ニシテ之ニ費シタル徵收費ハ九萬四千八百九十一「フラン」ヲ要シタリト云ヘリ人口富度ニ大ナル關係ナキ海關稅ニ於テスラ既ニ然リ況ンヤ他ノ間接税ニ於テヲヤ

人民一般ハ直接税ニ對シテ反對シ間接税ニ贊同スルノ傾向ヲ免カレス佛國千八百四十八年ノ共和政府ハ此租税ノ原則ニ明カナラサリシヲ以テ失敗ヲ招キ又ナボレヲ「第三世」ハ此理由ヲ利用シテ人民ヲ籠絡シタリ是人民カ多少自ラ欺クモノナリ唯實際租税ヲ負擔スル者ハ己レノ負擔ヲ十分ニ計算スルコトノ少ナキ地位ニ立テタルノミ若シ幸ニ課稅率ノ増加ト同時ニ物價カ自然ノ原因ニヨリテ下落シ爲メニ差引實際ノ物價ニ變動ナキ場合ニ於テハ人民ハ課税ノ増加ヲ感セスシテ已ム可シ

某財政家ノ言ニ曰ク「間接税ト直接税トノ差ハ恰モ竊盜ト強盜トノ差ノ如シ」ト而シテ間接税ノ人目ニ觸レサルハ唯之ヲ負擔スルトキニ知ラス負擔スルニ因

ルモノニシテ決シテ國家カ間接税ノ法案ヲ秘密ニ附スルニアラス故ニ此等ノ理由ヲ以テ之ヲ考フレハ若シ人民ト國家トノ關係尙ホ薄キニ於テハ間接税ヲ課スルヲ以テ最良ノ策トセサル可カラス是即チ英國等ニ於テハ實際殖民地ニハ殆ント間接税ノミヲ徵收シ直接税ヲ負擔セシメサル所以ナリ夫レ然リ而シテ間接税ノ弊モ亦實ニ此ニ存スト謂ハサル可カラス蓋シ間接税ハ誘惑的ナルモノニシテ政府ハ過多ニ之ヲ要求シ議會亦過多ニ之ヲ協賛スル傾向アレハナリ例ヘハ巴里ニ於テ千七百九十九年ニハ間接税千五十萬フランニシテ千八百五十三年ニハ六千九百萬フランニ増加シ千八百六十三年ニハ一億七千五百萬「フラン」多キニ至レリト云フ

間接税ハ前言ノ如ク成ル可ク人民普通ノ消費品ニ課スルヲ以テ課税ノ範圍廣ク收入多シトス故ニ成ル可ク普通品ニ課税ス可ク成ル可ク普通品ニ課税スルトキハ比較的ニ多數ノ貧民カ比較的ニ少數ノ富者ニ比スレハ比較的ニ多ク負擔スルニ至ル此ノ如キ傾向ハ決シテ賛成ス可キコトニアラスシテ亦一種ノ弊害ト云フ可シ

間接税ヲ徵收スル場合ニハ之ヲ徵收スル政府ノ都合上ヨリモ亦之ヲ支拂フ者ニ取リテモ成ル可ク聚合セルヲ便トス故ニ大製造家カ勢力ヲ有シ其競争上小製造家ハ爲メニ妨害ヲ受ケサルヲ得ス從テ其結果トシテ資本ノ大ナル者カ生産事業ニ付キ獨占ノ權ヲ握ルニ至ル可シ是亦間接税ノ一ノ弊害ニシテ國民經濟上實ス可キコトニアラサルナリ

凡テ此等ノ事項ヲ以テ之ヲ視レハ間接税ハ決シテ人民ノ爲メニ眞實ニ利益多キ租税ニアラス唯多少自ラ欺クカ爲メニ其負擔ヲ感セサルノミ故ニ十分發達シタル共和國ニ於テハ決シテ輿論ハ間接税ヲ賛成セス瑞西ノ如キ是ナリ

以上述ヘタル所ハ人民一般ト間接税トノ關係ナリ而シテ一方ノ政府ニ於テモ亦間接税ヲ好メリ其理由ハ決シテ一ニシテ足ラサルナリ

第一 間接税ハ議院ノ協賛ヲ得ルコト容易ナリ即チ現在ノ稅率ハ成ル可ク本來ノマ、繼續スル精神商業社會ニ存スルモノナルカ故ニ商業者ヲ代表セル代議士ハ現存ノ間接税ハ成ル可ク之ヲ繼續センコトヲ欲ス可シ是蓋シ商業社會ニ於テ最も勢力アルハ常ニ大資本家ニシテ是等ノ大商人ハ平常巨額ノ商品ヲ仕

入レテ之ヲ貯藏シ既ニ其商品ノ間接税ヲ支拂ヘリ然ルニ後ニ至リテ間接税ノ廢止又ハ減率アルトキハ競争上不利益ナル地位ニ立タサルヲ得ヌ何トナレハ其變更前ニ多ク仕入レス又ハ全ク仕入レサル小商人ハ減税又ハ廢税ニヨリテ廉價ニ其商品ヲ仕入レ廉價ニ之ヲ賣ルコトヲ得レハナリ此等ノ大商人ハ常ニ間接税ノ廢止又ハ減率ニ反對セリ而シテ其之ニ反對スル口實ハ固ヨリ種々アル可シト雖モ畢竟スル所此理由ニ外ナラス之ニ反シテ若シ其税率ヲ増加スルトキハ大資本家又ハ大商人ハ常ニ利益ヲ受タ可キヲ以テ之ニ贊成ヲ表シ從テ議院ヲシテ容易ク政府ノ要求ヲ容レシムルナリ

藍格蘭ニ於テ千八百八十五年ノ頃ヤコブ第二世王ハ人民ニ不人望ニシテ王ノ提出シタル議案ハ大抵議院ニ於テ否決シタリシカ國產税及海關税ヲ繼續スル議案ノミ可決セラレタルコトハ當時顯著ナル一事實ナリシナリ又英國ニ於テ自由保護ノ貿易論ノ盛ナルヤ富豪ナル商人ハ常ニ海關税存續ノ說ヲ執リタリト云フ

第二 國民經濟ノ發達スルニ從ヒ間接税ハ自ラ國庫ノ收入ヲ増加スルコト直

接税ヨリモ遙カニ大ナリ英國ノ海關税ト國產税トヲ合セテ千八百一年ニハ一九、三三〇、〇〇〇磅ナリシカ爾後千八百三十六年ニ至ルマデニ新ニ課シタル間接税額ハ二三、五三〇、〇〇〇磅ニシテ又舊間接税ノ廢止セラレタルモノ二三、〇四四、〇〇〇磅ナリ又其總額ハ三六、〇〇四、三〇〇磅ニ達セリト云フ而シテ此年間人口ノ増加ハ千八百三十六年ニハ千八百一年ニ比スレハ五割九分ヲ増加セリト云フ(ボルト)氏進歩論又千八百二十二年乃至千八百五十一年ノ歲入ヲ調査スルニ人口増加ノ爲メニ歲入總額ハ年々増加シ凡ソ平均五万磅ノ増加ニシテ内間接税ノ歲入ハ十九万磅ナリト云フ又此他豊作ノ爲メニ地方農夫ノ好都合又ハ商業ノ好景氣等ノ事アルトキハ從テ國庫ノ收入ヲ増加ス然レトモ戰爭又ハ疾病流行等アルトキハ其收入ハ著シク減少スルモノナリ

第三 唯時々國內ニ在留スル所ノ外國人ノ如キハ直接税ニ依リテ國費ヲ負擔セシムルヨリモ間接税ニ依リテ之ヲ負擔セシムル方大ニ容易ナリ勿論或ル場合ニハ外國人ト雖モ直接税ヲ負擔セシムルコトヲ得サルニ非サルモ一時在留セル外國人ニハ間接税ニ依ルニ非サデハ之ニ國費ヲ負擔セシムルコトヲ得サ

ルナリ此點ハ今日ノ如ク外國人ノ内地ニ在留スル者多キ時ニ於テハ政府カ徵
稅方策上最モ注意ス可キ所ナリトス

財政學ノ講義ハ未タ此ニ盡キスト雖モ有賀氏官命ヲ帶ヒテ急ニ海外ニ
渡航セラレタルヲ以テ本講義ハ止ムヲ得ス此ニ終ヲ告ケ餘ス所ハ逕信
省書記官法學士下村宏氏ニ囑託シ其講義ハ既ニ第十一號以來之ヲ掲載
シ來レリ即チ二者相待チテ完璧タルコトヲ得ン

財政學終

(三十二年新講義錄)

法學士有賀長文講述

財政學講義

和佛法律學校發行

財政學目次

緒論

第一節 財政學ノ名稱……………一

第二節 財政ノ意義……………二

第三節 國家經濟ト個人經濟トノ差別……………四

第四節 國權の思想及公私權の思想……………七

第五節 國權の思想ト私權の思想ノ結果ニ於ケル差異……………一三

第六節 財政ニ關スル國權の思想ト私權の思想ノ差異……………一六

第七節 國權の思想ノ發達……………一八

第八節 財政學ト國民經濟學トノ關係……………二三

本論

第一編 歲入論……………二六

第一章 租稅……………二六

第一節	租税ノ意義	二六
第二節	租税ニ對スル觀念	二九
第三節	租税ノ源泉	三三
第四節	租税ノ程度	三七
第五節	租税ノ區分	四二
第六節	租税ノ移轉	四五
第七節	地租ノ移轉	四九
第八節	勞力ニ課スル諸租税ノ移轉	五三
第九節	資本ニ課スル租税ノ移轉	五七
第十節	實際上租税移轉ノ原則	六三
第十一節	新稅廢稅及ヒ稅率變更ノ影響	七四
第十二節	租税ノ須要	七七
第十三節	租税ノ合法	八四
第十四節	累進稅	一〇三

第十五節	法序ノ原則	一二二
第十六節	租稅政畧	一二四
第十七節	租稅承諾	一一八
第十八節	租稅承諾ノ權利義務	一二〇
第十九節	租稅制度	一二七
第二十節	複稅附租稅ノ彈力性	一三四
第二十一節	國際租稅	一四〇
第二十二節	免稅	一四六
第二十三節	租稅免除制ノ廢止	一四九
第二十四節	租稅徵收論	一五〇
第二十五節	怠納處分法	一六二
第二十六節	脫稅及ヒ其刑罰	一六七
第二十七節	收入稅即チ所得稅ノ長所	一七四
第二十八節	所得稅ノ短所	一八一

第二十九節	所得稅ノ豫備の性質	一八七
第三十節	財產稅	一九一
第三十一節	相續稅	一九四
第三十二節	生産力ニ課スル租稅收益稅	一九九
第三十三節	地租	二〇二
第三十四節	地租登錄及ヒ地價修正	二〇九
第三十五節	勞力ニ課スル直接稅	二一六
第三十六節	階級稅	二一九
第三十七節	資本ニ課スル租稅	二二四
第三十八節	營業稅(デベルベ、ストイエル)	二三七
第三十九節	營業稅賦課法	二四〇
第四十節	直接稅ト間接稅トノ比較一斑	二四四

財政學目次 終

序次ノ便ニ因リ生産の國債ト不生産の國債ノ區分ニ付キ一言スル所アル可シ
國債ノ生産的ト謂ヒ不生産的ト謂フハ其起債ニ因リテ得タル臨時收入ノ支途
ノ生産的ナルヤ不生産的ナルヤヲ指スニ非スシテ國債其モノニ存ス故ニ一方
ニハ縱令其收入ノ使途カ不生産ニ使用セラル、モ國債ノ總額財政ノ上ヨリ觀
察シテ未タ多キニ失セス其利子期限等ノ體様宜シキヲ得其市場ノ價格モ額面
高ヲ超ユル場合ニハ以テ生産的國債ト稱スルヲ妨ケサルト共ニ一方ニハ縱令
其收入ノ使途カ生産的ニ使用サル、トモ國債ノ總額財政ノ上ヨリ觀察シテ多
キニ失シ其利子期限等カ體様宜シキヲ得ス其市場價格モ額面高ヲ下ルカ如キ
場合ニハ復不生産的國債ト稱スルコトヲ妨ケサルナリ但此間ノ區別ヲ知ルコ
トノ必要ナルト同時ニ又其使途ノ生産的ナルト不生産的ナルトハ結局國債其
モノ、生産不生産ト爲ル可キコトヲ忘ル可カラズ如何トナレハ生産的ニ使用
サレシ場合ニハ其債務ハ容易ニ償還セラレ多クノ場合ニハ政府ノ收入ニ幾多
ノ餘剩ヲ殘シ少クトモ一國ノ富ヲ増進シテ結局人民ノ負稅力應募力ヲ増進シ
國債募集又ハ整理ノ條件ヲ容易ニ爲スモノナレハナリ隨テ經濟上ニ屬スル平

常國債ハ所謂生産的國債タルヲ例ト爲スモノナリ
行政上ノ平常國債トハ主トシテ國家カ内務行政ノ行動トシテ現ハル、モノニ
シテ收入ノ獲得其モノヲ目的トセサル政府ノ負債ナリ貯金貯金年金供託金身
元保證金俸給差引預金積立金等ノ類是ナリ(其詳細ハ第四節流動國債ノ場合ニ
譲ル)

第二節 內國債ト外國債

國債債權者ノ國籍ヲ以テ標準ト爲シ其全部若クハ大部分カ外國人ノ手中ニ在
ル場合ハ外國債ト稱シ內國人ノ手中ニ在ル場合ハ內國債ト稱ス其募集地ノ内
外何レニ存スルヤハ問フ所ニ非サルモ外國債ハ外國ニ於テ募集サル、ヲ原則
トシ內國債ハ內國ニ於テ募集サル、ヲ常ト爲スモノナリ此二者ノ別ハ公債證
書其モノ、移轉ニ因リ互ニ其性質ヲ變ス可キハ言フ俟タス近ク我二十七八年
役ニ於ケル軍事公債ノ如キ、サミユエル商會ヲ經テ其大部ハ外國人ノ手裡ニ移
轉セルハ世人ノ知ル所ナリ

內國債外國債ノ區別ハ單ニ債權者ノ内外國人ナルヤニ存シテ必要ナル分類ト

視ルコト能ハサルモ外國債其モノ、利害關係ハ政治問題ト相牽聯シテ從來學
者ノ多ク研究セラル、所タリ今年我政府ハ又一千萬磅ノ外國債募集ノ舉アリ
其政策ノ是非ハ社會ノ全般ニ影響ヲ來シ時ニ一國ノ生存問題ニ波及スルコト
ナキニ非サルヲ以テ少シク茲ニ講述スル所アル可シ
外國債ニ付テハ現時之ヲ絕對ニ非議スル者アルヲ聞カス今便宜ノ爲メ消極論
者ノ重ナル論點ヲ列舉スレハ大畧次ノ如シ

外國債ノ弊害

第一 財政上ノ弊害

- 一 借入容易ニシテ低利ノ場合多キヨリ濫リニ起債スルノ患アリ
- 二 前項ノ結果トシテ浪費ヲ生シ爲メニ經費ヲ増加ス
- 三 前項ノ結果トシテ國庫ノ破産ヲ迫レンニハ増稅ノ手段ヲ執ラサルヲ得
サルノ患アリ

第二 經濟上ノ弊害

- 一 外資ノ輸入ハ一時ニ通貨ヲ膨脹スルモノナルヲ以テ金融市場ヲ擾亂ス

二 前項ノ結果トシテ物價ニ急激ナル變動ヲ來ス

三 物價騰貴ノ爲メ輸入超過ト爲ルト同時ニ一項ニ因リ輸入スル正貨ノ流出ハ益其度ヲ高ム可キコト

第三 政治上ノ弊害

一 財政ノ不整理ハ直接間接ニ債權國ノ干渉ヲ蒙リ甚シキハ一國ノ主權ヲ制限セラル、ニ至ルコト

乃チ前掲スル所ヲ畧言スレハ外國債ハ濫リニ起債セラル、要多ク之ヲ起セハ金融市場ヲ擾亂シ時ニハ外國ノ干渉ヲ受クルニ至ル可シト云フニ在リ今序ヲ遂フテ此利害ヲ辯明ス可シ

第一款 財政上外國債ノ利害ヲ論ス

「ガルニエ」曰ク國債ハ戰爭ヲ誘導シ租税ハ戰爭ヲ制止スト消極論者ハ國債中ニ在リテモ外國債ハ殊ニ戰爭ヲ誘導シ易シト云フニ外ナラス換言スレハ其起債ノ容易ニシテ間々却テ低利ナルコト多シト爲スヲ以テ濫リニ募集シ結局浪費ヲ助成シ之ヲ填補スヘキ惡税ノ増加ト爲ル可シト云フニ在リ所謂浪費大ニ

シテ惡税ヲ増加ス可シトハ先ツ無用ノ經費ノ爲メニ起債セルコトヲ前提トシテ論スルモノニシテ唯リ外國債ニ限ラル可キモノニ非ス又其起債ノ容易ナル爲メ結局外國債ハ內國債ヨリ財政上ノ弊害ヲ來ス可キ機會多シト云ハンモ外國債ハ常ニ內國債ヨリ起債容易ナリト云フコト克ハサルナリ通常何レノ國ニ通スルモ先ツ內國債ヲ起スヲ原則トシ既往內國債ノ總額又ハ最近起債ノ時期募集額等ノ關係ト金融界ノ狀勢トヲ照應シ內國債ニ依ルコト困難ナルカ又ハ不可ナリト認ムルトキ始メテ外國債ニ依ルヲ原則ト爲スハ彼ノ伊太利、埃太利、露西亞等ノ國債歴史ニ依ルモ明カナル事實ニシテ今年我國ノ外債募集ニ對シテモ亦之カ消息ヲ付度スルニ難シト爲サ、ルナリ大數觀測ヲ以テ言ヘハ內國債却テ外國債ヨリ起債容易ナル可キヤ未タ知ル可カラス殊ニ東洋諸國其他半開ノ國ニ在リテハ巨額ノ供給資本ヲ以テ充實セル歐米ノ市場モ猶ホ此カ募集ニ應スルニ躊躇シ信用ノ薄弱ナル決シテ外國債ヲ以テ容易ニ成立シ得可キモノト認ム可カラサルモノアリ是レ消極論者カ根本ニ於テ全然同意ヲ表ス可カラサル所以ニシテ其財政上生ス可キ弊害ハ内外國債ノ區別如何ニ非スシテ一

ニ當事者ノ手腕如何ニ存ス可キコト言フ俟タサルナリ

七八

本年五月末日大蔵省令第二十二號ニ依ル外債ノ如キ其成立ニ至ルマテ實際ニ於ケル成行ノ難易ハ姑ク之ヲ問ハス四分利ニシテ發行價格百磅ニ付キ九十磅之ニ百分ノ四ノ手數料ヲ控除シテ結局八十六磅ノ手取ト爲レルカ如キ少クトモ外國債ヲ以テ內國債ヨリ容易ニ且利益多キ條件ヲ以テ成立スルコトヲ得可キモノト斷言シ難キモノアルヲ知ルニ至ル可シ

第二欸 經濟上外國債ノ利害ヲ論ス

外國債ノ募集ハ一時ニ通貨ヲ募集スルト相同シキヲ以テ金融市場ニ急激ナル動搖ヲ來シ物價ノ騰貴ハ正貨ノ流出ト相俟テ輸入超過ト爲リ漸次又通貨ノ缺乏ト爲リ社會事業ノ發達ヲ挫折シ經濟界ヲ紊亂ス可シトハ消極論者カ經濟上ノ弊害トシテ舉クル所ナリ此論點モ亦等シク絶對的ニ是非ス可キモノニ非スシテ內國債ニ於テモ經濟上ノ弊害ヲ來ス可キ場合アルト共ニ外國債モ亦此等ノ弊害ヲ除去シテ却テ巨多ノ利便ヲ來スコトアリ其是非ハ一ニ內國金融界ノ狀勢如何ニ存スルモノナリ若シ內國ノ金融界逼迫ヲ告グルコト無ク所謂

遊金ノ存スル場合ニハ內國債ノ募集ハ容易ナルノミナラス民間資本家モ亦希望スル所ナリ此際猶ホ安キヲ避ケテ特ニ外國債ヲ起サンカ金融界既ニ通貨ノ潤澤ヲ告タルニ加フルニ外資ノ輸入ヲ以テス前掲スルカ如キ弊害ノ生ス可キコト又火ヲ賭ルヨリモ明カナリト謂フ可シ然レトモ容易ニ起債シ得可キ內國債ヲ避ケテ外國債ニ依ルコトハ想像シ得可カラサル事實ニシテ一般ニ外國債ヲ起スハ內國債ニ依ルコト不利ナルカ又困難ナル場合ニ在リ今內國債ヲ募集スルニ際シテ其國債カ流動國債即チ短期ノ國債カ又ハ縱令確定國債ナリトモ應募者カ其資金ヲ外國ノ生産事業ニ投下セルモノヨリ之ヲ回收スル場合ニハ內國經濟界ニ及ホス可キ影響ハ稀少ナル可キモ一般ノ場合ニ於テ內國金融界逼迫ヲ告ケ資本ハ總テ生産事業ニ投下セラレ遊金ノ存セサル場合ニハ苟モ內國債ヲ起シテ成功ヲ期センニハ必スハ金利ヲ高クシ拂込高ヲ低クスル等勢ヒ財政上不利益ナル條件ヲ以テセスンハ非ス換言スレハ既ニ生産事業ニ投下セル資本家ヲシテ其實本ヲ引戻サシムル丈ケノ條件ヲ與フルニ非スンハ成功ヲ期シ難キコト言フ俟タス此ノ如キ場合ニ於テハ資本家其モノ、利害關係ハ

姑ク之ヲ措キ社會全般ハ一時資本ニ急激ナル變化ヲ受クル爲メ物價其他ニ影響ヲ受ケ經濟界ニ一種ノ亂調ヲ呈ス可キト共ニ中産者以下ハ一方ニ於テハ其公債ノ元利支拂ノ爲メ結局租税ノ負擔ヲ増加スルト共ニ從來投資セラレシ事業中絶ノ爲メ其職ヲ失ヒ勞働ノ供給過多ノ結果トシテ營業所得勞銀ノ暴落ト爲リ社會問題ニ牽聯シテ尠カラサル害毒ヲ與フ可キコト又消極論者カ唱道スル場合ノ比ニ非サルナリ此ノ如ク一方ニハ內國債ノ起債カ民間生産事業ノ進捗ヲ障害ス可ク一方ニハ政府カ起債スル目的ハ交通事業ノ如キ確實ニシテ有利ナル事業ヲ開クニ在ルトキハ外國債ヲ募集ス可キコトハ當然ノ事理ニ屬シ却テ好箇ノ良策ト謂ハスンハ非ス利子ノ流出ハ固ヨリ巨額ノ外資流用ノ報酬ナリ一方ニ民間ノ生産事業ヲ障害セス一方ニ有利ノ官業ヲ興スニ於テハ毫モ弊害ノ發生ス可キ理由ヲ見サルモノトス經濟上ニ於ケル外國債ノ利害又絕對ニ之ヲ論斷ス可カラサルト共ニ事實外國債ニ依ル場合ハ內國債ニ依ル克ハサルカ又之ニ依ルトキハ一層ノ害毒ヲ生ス可キ場合ナル可キコト知ル可キナリ其起債ノ目的ノ良否ニ至リテハ又内外國債ノ間ニ何ノ差異カアランヤ

第三款 政治上外國債ノ利害ヲ論ス

外國債ノ通弊トスル所ハ財政ノ不整理ニ伴フテ外國干涉ノ端ヲ啓クニ在リトハ一般ニ唱道セラル、所ニシテ時ニハ又債權者國ハ債務者國ノ信用ヲ墜落セシメンカ爲メ故意ニ債務國ノ公債ヲ賣出スカ如キコトアリ外國干涉ノ實例トシテ引證セラル、ハ多ク埃及突尼斯等ニシテ國際法上外債償還ノ不履行ハ干涉ノ原因ト認ム可キヤ否ヤ姑ク之ヲ措キ「ワツタル」氏ノ如キハ臣民ノ財産ハ即チ國家ノ有スル富ノ總額ニシテ國民ノ財力ハ直チニ國力ヲ消長スルモノトシ正當ナル干涉ノ原由ト見ルモノ、如シ事實外國干涉ノ結果トシテ其獨立權ヲ失フニ至レリ

埃及政府カ土耳其ヨリ内政上ノ獨立ヲ得シハ一千八百四十一年、六十六年及ヒ七十二年ノ條約ニ依リシモノニシテ一千八百八十二年七月ニハ其國債總額一億九百一萬六千六百五十磅人口一人ノ負擔額十九磅十九志其利子ノ負擔額十八志四片ニ當リ國債費ハ歳入ノ五分ノ三ヲ占ムルニ至レリ一千八百七十六年英人「グープ」氏派遣委員トシテ入ツテ埃及財政ノ整理

ニ着手シ後「ゴツシエン」ジューベル氏等又之ニ次キテ此處分ヲ厲行シ一千八百七十九年検査總官ノ制ノ下ニ埃及ノ財政ハ舉ケテ英佛二國ノ手裡ニ飯シ其債務ヲ果スニ不能ナルコト公言セラレテヨリ英佛獨逸伊同等ノ聯合債還委員會ノ編成ト爲リ財政干涉ニ對スル國內ノ反抗ハ武力干涉ト爲リ今ヤ英兵ノ埃及ニ駐屯シテ文武其實力ヲ控制スルハ世人ノ知ル所ナリ然レトモ此等ハ毫モ外國債其モノ、弊害ニ非スシテ國債管理其宜シキヲ得キルニ基因ス信用ヲ輕視シテ契約ノ條件ヲ違背スルハ政府自體ノ失錯ニ出ルモノニシテ彼ノ「グープ」氏ノ報告ニモ埃及ハ一方ニ於テ東方ノ無智不正浪費ノ弊風行ハレ一方ニハ一時ニ歐米ノ文化ヲ輸入セントシ事業ノ緩急經理ノ方法ヲ謬リ無謀ノ企業ヲ爲シタルニ因レリト財政紊亂ニ伴フ弊害ハ固ヨリ外國債ニ限ル可キニ非ス其利害ハ一ニ財政ノ管理如何ニ在リテ存ス埃及突尼斯等ヲ以テ一般ニ律セントスルハ根本ニ於テ誤レリト謂フヘシ

之ヲ要スルニ國債ハ銳利ナル武器ナリ其任用ノ方法如何ハ能ク國ヲ活シ又能ク國ヲ亡スハ前ニ繰述セル所ナリ殊ニ外國債ニ於テ其著ルシキヲ見ルコト余

輩亦信シテ疑ハス外國債ハ其起債管理償還ニ於テ殊ニ慎重ナル注意ヲ要ス可キコトハ言フ俟タサルト共ニ外國債其モノハ決シテ忌ム可キモノニ非サルノミナラス却テ特權ノ效果ヲ有ス可キコトハ上述スル所ノ如シ而シテ實際ニ於テハ内外國債ノ利害ヲ對照シテ選擇スヘキ餘裕アル場合ハ稀ニシテ多クハ需要ニ應スルニ急ナル餘復之カ選擇ヲ爲スコトヲ得サルヲ例ト爲スモノナリ近時輸入超過シ正貨流出シ經濟界ノ變調ヲ來サントスルニ際スル調和策トシテ外債ニ依ルコトアリ露國ノ如キ是ナリ又一方ニハ信用機關ノ發達ニ伴ヒ巨額ノ資金一時ニ流入スルコトヲ避ケ一方ニハ手數經費ヲ節減スルノ策トシテ先ツ官業ノ材料等ヲ債主國又ハ其附近ニテ購買スルコトアリ況ヤ外債ニ依リテ各國ヲ通シテ財政上互ニ相牽聯スルコトハ國際上喜フ可キ現象ニモテ其利害關係ハ平和ノ鍵トシテ直接間接ニ戰亂ノ害毒ヲ防遏スルノ効アルニ於テヲヤ

第三節 強制國債ト任意國債

國債募集ノ性質ヲ標準トシテ國債ヲ分類スレハ之ヲ強制國債ト任意國債ニ分類スルコトヲ得可シ但此ニ任意國債ト云フハ強制セサル國債ト云フ意也ニシ

テ所謂愛國國債契約國債通常國債等ヲ包含スルモノナリ

第一款 強制國債

強制國債トハ政府カ相手方ノ合意ヲ經ス強制シテ起債セル國債ナリ其強制方法ノ直接ナルト間接ナルトニ因リ又再分シテ直接強制國債及ヒ間接強制國債ノ二種ト爲ス

甲 直接強制國債

直接強制國債ハ往時屢行ハレシモノニシテ一種ノ非常稅ト視ルコトヲ得可シ其租稅ト異ナルハ其強制シテ借入レシ元金ニ付キ支拂ノ義務アルト其元金ニ對シ通常低利ヲ附スルコトアルニ在リ隨テ又其證書ヲ賣却スルコトヲ得可シ所謂強募法ト稱セラル・モノ是ナリ

直接強制國債ハ又其強制方法ニ因リ之ヲ借入強制國債ト支拂強制國債ノ二種ニ再分スルコトヲ得可シ即チ

借入強制國債又ハ割付國債トハ國民ノ財産ニ對シ或標準ヲ以テ拂込額ヲ割付ケ此カ借入ヲ強制スルモノナリ

支拂強制國債トハ政府カ國民ニ對スル債務ノ支拂ニ際シ合意ナクシテ現金ノ代リニ公債證書ヲ以テ支拂ヲ強制スルモノナリ

借入強制國債ハ種々ノ標準ニ據リテ此カ割付ヲ強制スルコトアリ府縣郡市町村自治團體ノ階級ヲ通シテ順次此カ借入高ヲ配付スルアリ或ハ政府各人拂付所ノ直稅ノ歩合ニ比例シテ割付クルアリ或ハ富裕ナル地方ヲ指定シテ所定ノ出金ヲ命シ此カ租稅ヲ免除スルコトアリ此等何レノ方法ニ依ルモ政治上人心ヲ離畔シ政府ノ信用ヲ減却ス可キハ固ヨリ其不公平不便ナルコトハ復說明ヲ俟タズ即チ國民財産ノ實額ヲ知悉シ難キト又其財力ヲ詳悉スルモ租稅論ニ於テ既ニ知レルカ如ク財力ト被稅力ハ互ニ正比例ヲ爲サ、ルモノナルヲ以テ結局公平ヲ失ス可キノミナラス租稅ト異ナリ不時ニ割付國債ヲ強制スルトキハ國民ニ與フル害毒不便大ニシテ一方ニ收入ノ速ナラスシテ急速ノ需要ヲ充スコト克ハサルニ至ルハ明カナル事實ナリトス往時諸國ニ於テ此方法ニ依リ非常ノ費用ヲ辨セントシ悉ク失敗ニ了リシハ又怪シムニ足ラサルナリ

佛蘭西ニ於テハ一千七百九十三年及ヒ一千八百十五年奧太利ニ於テハ一

千七百五十年、千七百六十年、千七百九十四年、千八百六十年、千八百五十年、千八百五十九年、西班牙ニ於テハ一千八百三十八年ニ於テ行ヘル強募法ハ其ニ有名ナルモノニシテ其他「バーデン」等ニ於テモ行ハレタルモノ何レモ失敗ニ了リ一千七百九十三年佛蘭西ニ於テ募集ノ場合ハ四億圓ニ對シ四千萬圓ヲ得ルニ過キサリキ唯稍成効ニ近カリシハ一千八百十五年ノ場合ニシテ其額ノ四千萬圓ノ少額ニ止マリシト當時那翁連年戰亂ノ餘國民平和ヲ望ムコト切ニ政府ノ信用亦厚カリシヲ以テ年内ニ豫定ノ額ヲ得タルコトアリ

支拂強制國債モ其政治上經濟上財政上何レノ點ヨリ觀ルモ害毒ノ大ナルコト復言ヲ俟タス殊ニ證書ヲ其當時ノ市價ヲ以テ支拂フコトナク額面價格即チ平價ヲ以テ支拂フニ於テ殊ニ然リト爲ス佛國ニテ那翁一世平價ヲ以テ支拂ヲ強制シ殆ト三割餘ノ損失ヲ債權者ニ負ハシメタリ蓋シ債權者カ物品供給ノ結果ナルト公債ノ所有者ナルトヲ問ハス多ク其支拂ニ因リ現金ノ收得ヲ豫期セルモノニ際シ猶ホ證書ヲ以テ交付スルトキハ必スヤ之ヲ賣却シテ現金ヲ收得

セシムハ非ス而シテ其收得金ハ證面額ニ比シテ固ヨリ少カル可ク猶ホ多少ノ手數ト時間ヲ要スルヲ以テ物品供給者ノ如キ此等事實ノ發生ヲ豫期スルトキハ其損失ヲ填補スルニ足ル可キ價格タケ高ク賣込ム可キハ當然ノ事理ニシテ政府カ強制支拂ノ弊風ヲ學ヒテ偶寸毫モ利スル所ナキニ至ル可キナリ而シテ其證書交付ノ爲メ受クル所ノ損害ハ物品供給者其他大藏省證券ノ如キ短期國債ノ所有者ニ於テ大ナル可キハ亦明カナリ信用ハ經濟社會ノ根底ヲ形ツクルモノナリ若シ政府財政ノ不振ニ因リ現金支拂ヲ以テ離レト爲セハ債主ト協議シテ此カ支拂ノ延期ヲ爲シ又ハ他ノ證書ト借換ヲ爲スハ猶ホ可ナリ事口公然普通ノ方法ニ依リ大藏省證券又ハ長期ノ國債ヲ起シ以テ信用ノ維持ヲ計ラスンハ非サルナリ

乙 間接強制國債

茲ニ間接強制國債トハ不換紙幣ヲ指スモノニシテ合法貨幣トシテ強制通用ヲ爲スモノナリ即チ買賣貸借等ニ於テ額面價格ヲ有シ何人ト雖モ之カ授受ヲ拒ムコト克ハサルモノナリ不換紙幣ハ利子ノ支拂ナク募集ノ費用ヲ要セス其原

料品ノ價格發行ノ費用ノ如キ僅少ノ額ニ止マリ其モノ自體ノ利用價值ハ殆ト皆無ト謂フヘク殊ニ元金ノ銷却スラ法律上制限ヲ受ケサルモノナルヲ以テ一種ノ支拂直接強制國債ニシテ債主不定ニ元利支拂ノ義務ナキモノナリ

論者或ハ不換紙幣ノ發行ヲ以テ貨幣ノ吹換又ハ賸鑄ト同一ナリト極論スル者アレトモ不換紙幣ノ發行ハ貨幣ノ吹換ノ場合ノ如ク常ニ不正ノ手段ヲ包含セサルノミナラス其管理宜シキヲ得ハ毫モ額面價格ヲ下ルコトナク財政危急ノ際ニハ唯一ノ良策トシテ偉効ヲ奏スルコトアリ

不換紙幣ハ銀行ノ手形發行ニ濫觴シテ法律上政府又ハ銀行カ發行セシ紙幣ニ強制通用ノ性質ヲ與ヘ正貨ト兌換スルノ義務ナキモノナリ其發行ノ容易ナルコリシテ現時各國ヲ通シテ盛ニ此制行ハレ其濫用ノ結果到ル處害毒ヲ流布シ「ウエプスター」氏ノ如キ紙幣ノ爲メニ吾人カ被リタル災害ハ實ニ甚シク人民ヲ殺戮シ國家ノ利益ヲ破壞シ正義ヲ亂リ其害毒造ニ戰爭ニ勝レリト云フニ至レリ蓋シ不換紙幣ノ問題ハ貨幣論ニ於テ攻究ス可キモノニシテ茲ニハ之ヲ詳論スルノ機ナキカ故ニ只財政上ノ點ヨリ此利害ニ付キ其梗概ヲ述フルニ止メ

トシテ研究スルノ必要ヲ認メサルヲ得ス是レ予カ經濟學ノ定義ニ於テ其人類ニ關スルヲ明言セル所以ナリ他日若シ經濟現象ヲ研究スルニ當リテハ專ラ重キヲ人類ニ置カサルヘカラサルコト一般ニ認メラルハニ至ラハ第一段ノ文字ヲ刪除シテ可ナリ

第二段ニ所謂財貨ニ關スル現象トハ即チ財貨又ハ富ノ生滅増減等凡ソ人類ノ經濟上ニ於ケル損益禍福ニ關スルモノナリ然リ而シテ富ノ生滅ト謂ヒ増減ト謂ヒ頗ル議論ノ紛々タル語ナレハ茲ニ之ヲ詳論セス是レ寧ロ純正經濟學ニ於テ攻究スヘキ所ナリ

註 第二段ニ經濟學ハ財貨ニ關スル現象ヲ攻究スルモノナリト曰ヘリ財貨ニ關スル現象トハ富ハ如何ニシテ生シ如何ニシテ滅スルカ等總テ人類ノ經濟上ニ於ケル損益禍福ニ關スル所ノモノヲ謂フ然ルニ富ノ生滅増減等ノ如キ語ハ經濟學上頗ル議論アル所ニシテ富ノ生スルトハ主トシテ其生産セラレハヲ謂フナリ又富ノ滅スルトハ如何ナルモノナリヤ富ヲ構成スル物質ハ其レ自身或ハ生シ或ハ滅スルモノナリヤ等ハ學者ノ間ニ頗ル議論アル所ナ

リ然レトモ是等ヲ講究スルハ純正經濟學ノ範圍ニ屬スルカ故ニ今之ヲ詳論セシ此所ニハ唯富ノ生産増殖ノ語ニ付キ其概念ヲ會得スルヲ以テ満足セサルヲ得ス

獨リ人類ト云フ名詞ニ關シテハ既ニ人類社會云々ト云ヘルニ依リテ明カナルヘシト雖モ尙ホ少シタ説明ヲ爲サハルヘカラス茲ニ謂フ所ノ人類トハ野蠻時代ノ原人カ個々別々ニ孤立シテ單獨ニ自ラ狩獵漁業等ヲ事トシ且ニ生産シタ消費シテ僅ニ生計ヲ立ツルニ過キサリシカ如キモノヲ謂フニ非ス縱令不完全ニモセヨ一個ノ有機的社會ヲ造リ居ル者ヲ指スナリ即チ「アリストートル」フ所謂人類ノ人類タル社交的ノ性質ヲ備ヘ共同的ノ生計ヲ爲スモノヲ謂フナリ

註 經濟學ニ謂フ所ノ人類トハ不完全ナカラモ一個ノ有機的社會ヲ形成シ而シテ其社會ノ一分子トシテ生活シ他人ニ對スル關係ヲ有シ他人ト交換ヲ爲シ共同生存ヲ爲ス所ノモノニシテ太古ノ野蠻時代ニ於ケル人類ノ如ク各個獨立シテ山ニ獵シ河ニ漁シテ僅ニ生活ヲ敢テ他人ニ對スル關係ヲ有セス

且ニ獲テタニ盡クシ腹滿ツレハ則チ息シ飢ユレハ則チ食ヲ覓ムル底ノ人類ハ經濟學ノ取扱フ人類ニ非ス斯ル時代ニ於テ一見經濟現象ノ如ク見ユルモノハ經濟學上ニ所謂經濟現象ニ非ス經濟現象ナルモノハ人ト人トノ間ニ交通ヲ爲スコト即チ「アリストートル」フ所謂人類ノ人類タル社交的ノ性質ヲ備ヘタル人類カ相頼リ相助ケテ以テ共同生存ヲ爲ス者ノ間ニ起ル所ノ現象ノ一種類ヲ指シテ經濟現象トハ謂フナリ斯クノ如キ經濟現象ヲ有セサル人類ハ經濟學上ニ於テ謂フ所ノ人類ニ非サルナリ

斯ル人類ノ間ニハ宗教道德政治法律等ノ現象アリテ之ヲ攻究スルニハ各專門ノ學課アリ而シテ其財貨ニ關スル現象ヲ攻究スル學科ヲ稱シテ汎ク之ヲ經濟學ト曰フ故ニ經濟學ハ社會ニ關スル學問ノ一ニシテ其論究スル所ハ社會ノ一部分トシテノ人類ニ關スルモノト知ルヘシ原人間ニ行ハルハ財貨ニ關スル現象ハ之ヲ個人經濟ノ現象又ハ私經濟現象ト稱シ個人經濟學又ハ私經濟學ノ宜シク講究ス可キ所ナリ經濟學ハ實ニ日本支那英佛獨等ノ如ク一ノ社會國家ヲ爲セル國民ノ財貨ニ關スル現象並ニ國民ト國民トノ間ニ存在スル財貨上ノ關

係等ヲ攻究スルモノナリ經濟學ハ社會國家ノ觀念ヲ離レテ存在スルモノニ非
ス

九六

註 人類カ不完全ナカラモ荷モ一ノ社會ヲ形成スレハ自然其間ニ種々様々
ノ社會現象ヲ生ス即チ宗教現象道德現象政治法律等ノ現象ヲ生スヘシ然リ
而シテ財貨ニ關スル現象ハ其一種ナリ經濟學ハ此種ノ現象ヲ攻究スルヲ以
テ其目的ト爲スモノナリ彼ノ原人時代ニ行ハル、經濟現象類似ノ現象ハ之
ヲ個人經濟ノ現象若クハ私經濟現象ト稱スヘキモノニシテ此所ニ所謂經濟
現象ニ非ス隨テ經濟學ニ於テ攻究スル所ニ非スシテ他ノ學科即チ個人經濟
學若クハ私經濟學ニ於テ攻究スヘキモノナリ但此個人經濟學私經濟學ハ一
個獨立ノ學問トシテ存在スルモノナルヤ否ヤハ是レ自ラ別問題ナリ唯此所
ニ所謂經濟學ナルモノハ社會國家ヲ組織スル人類ト人類トノ間ニ起ル現象
ヲ攻究スルモノナリ故ニ經濟現象ナルモノハ社會國家ト相離ルヘカラサル
モノナリ

而シテ社會國家ハ國家的ノ制度文物多少具ハルニ非サレハ存在スルコト能ハ

ス經濟學ノ材料タル財貨上ノ現象ハ政治法律等ノ現象ト全ク分離シテ働クコ
ト能ハス勿論或場合ニ或國ニ於テ或法律カ全ク經濟上ニ影響ヲ及ボサ、ルコ
トアルハ往々見ル所ナレトモ全体ニ於テ國家ノ政治法律ノ具備スルニ非サレ
ハ經濟現象ナルモノ絶エテアルコトナシ

註 經濟學ハ社會國家ノ觀念ヲ離レテ存在スルモノニ非ス社會ノ成立ヲ埃
ヲ始メテ生スル所ノ學問ナリ而シテ社會國家ノ存在スルニハ國家的制度文
物ノ備ハルコトヲ必要トス蓋シ經濟現象即チ社會ニ於ケル財貨ニ關スル現
象ハ國家ノ政治法律ニ關スル現象ト關係ナクシテ働キ得ルモノニ非ス然レ
トモ此ノ法律政治現象カ悉ク經濟現象ニ影響ヲ及ボスモノナリトノ意ニ非
ス又或經濟現象ハ盛ニ行ハルニ拘ハラス之ニ關スル法律ハ何等ノ規定ヲ存
セサルコトアリ例ヘハ會社ニ關スル法律ナキニ拘ハラス會社ハ盛ニ行ハル
ハノ國アリ之ニ反シテ會社法ヲ以テ其國ニ未タ曾テ見サル所ノ會社ニ關
スル規定ヲ設クルコトアリ斯ル場合ニ於テハ法律ト經濟現象トニ何等ノ關
係ナキモノナリ然ルニ經濟現象ハ一國ノ法律政治ニ關スト云ヘルハ經濟現

象ノ全般ヨリ觀察シテ其法律政治ノ系統ト相關係スルヲ謂フモノナリ加之
經濟現象ト法律政治トハ一時無關係ナルニモセロ互ニ相誘發シ未タ法律ナ
クシテ經濟現象ノ存在スル場合ニ之ニ因テ法律ノ制定ヲ見ルコト決シテ稀
有ノ事ニ非ス前例ノ場合ニ於ケルカ如ク會社法ナクシテ或種類ノ會社存在
シ即チ一種ノ經濟現象ノ行ハル、場合ニ其取締ノ必要上之ニ關スル法律ノ
制定セラハル、カ如キ場合はナリ英國ノ如キハ概ネ斯ル有様ニテ法律ノ發布
セラハル、モノ、如シ又此反對ニ經濟現象ナクシテ先ツ法律發布セラレ而シ
テ此法律ノ發布ニ因リテ之ニ關スル經濟現象ノ發生スルコトアリ前例ノ場
合ニ於ケルカ如ク會社法カ其國ニ存在セサル會社ニ關スル規定ヲ設ケタ
ルニ因リ之ニ適合スル會社ノ後ニ至リ創立セラハル、場合ノ如キ即チ是ナ
リ

是ヲ以テ單ニ經濟學ト云ハハ社會國家ニ於ケル經濟現象ヲ論究スル學問ナル
コト勿論ナリ是レ古來ノ經濟學者カ常ニ説ク所ニ據ルモ既ニ明カナリ彼等ハ
往々個人的ノ觀念ヲ基礎トシテ立論スルコトアリト雖モ其所謂經濟學ノ中ニ
ハ決シテ個人經濟ノ現象ヲ説カサルナリ然ルニ近年世間ノ風潮ニ隨ヒテ徒ニ
新規ノ名辭ヲ好ミ經濟學ニ冠ムラシムルニ國家ノ二字ヲ以テスル者アリ是レ
多クハ國家主義ノ誤解ニ出ヅル偏見ニ基ヒスルニ非サレハ獨逸語「ナチロナ
ル」オエコノミ」ヲ直譯シタルニ過キスシテ必スシモ以テ大過失トハ爲スニ足
ラサルモ蓋シ無用ノ勞タルヲ免レス

註 前論スルカ如クナルカ故ニ單ニ經濟學ト云ハハ社會國家ヲ前提ニ置キ
テ經濟現象ヲ論スルモノナルコト勿論ナリ是レ古來經濟學者ノ論スル所ニ
據ルモ明瞭ナル所ナリ但彼等ノ説明ハ或ハ個人主義ニ據ル者アリ即チ個人
主義ヲ立論ノ根據トシテ經濟現象ヲ説明スルモノ彼等ノ中ニテハ寧ロ多數
ナレトモ此種ノ學者ト雖モ決シテ一個人ニ關スル私經濟現象ヲ論スル者ニ
非スシテ社會國家ノ經濟現象ヲ論スルモノナリ彼ノ個人主義經濟學派ノ
鼻祖タル英國ノ「アダム・スミス」著書ニ富國策ト題スルニ依リテモ其ノ一端
ヲ知ルニ足ル其他リカド等ノ説ク所モ亦皆社會國家ノ經濟現象ナリ而ル
ニ近來國家ノ文字ヲ用フルコト若ニ流行シ經濟學ニモ亦國家ヲフ文字ヲ冠

シ國家經濟學ト稱セサルヘカラスト曰フ者アリ又現ニ冠ムラシメタル者アリ是レ蓋シ多クハ國家主義ヲ誤解シテ國家主義ニ非サレハ經濟學ヲ說クコト能ハサルモノ信セテ此國家ナル文字ヲ附スルカ若クハ獨逸語ノ「ナチ」ナル、オエコノミー」ハ國家ニ關スル經濟學ト直譯スヘキモノナルヲ以テ輕卒ニモ經濟學ヲフ語ヲ廢シテ國家經濟學ト曰フニ外ナラス焉ソ知ラン獨逸ニ於テモ國家經濟學ヲフ語ハ必スシモ常ニ用ヒラル、語ニアラサルヲ英語ノ「ポリチカル、エコノミー」モ之ヲ直譯セハ政治經濟學ト曰フヘクシテ單ニ經濟學トノミ謂フヘカサルナリ然ルニ猶ホ單ニ經濟學ト謂フコト一般ノ慣例ナルニ非スヤ然レトモ縱令國家ノ字ヲ冠スルモ甚シキ過失ナリトハ謂フヘカラサルナリ

既ニ古來ノ用語法ニ從フモ經濟學ノ社會國家ノ經濟ニ關スルヤ勿論ナレハ今更新ニ國家經濟學ヲフ名辭ヲ既ニ錯雜至極ノ我學問界ニ増加セントスルハ極メテ益ナキコトナリ況ヤ國家經濟學ト曰フ時ハ其ノ範圍單ニ經濟學ト曰フヨリモ斯學ノ正當ニ論スヘキ範圍ヨリモ稍狹隘ナルカ如キ感覺ヲ人ニ與フルノ

恐レアルニ於テヤ即チ國家經濟學ト云ヘハ一國內ニ行ハル、經濟現象ノミヲ說クモノナルカ如クニモ聞エ又國家ノ財政ノミヲ論スル學問ノ如クニモ聞エ然レトモ經濟學ハ單ニ一國內ニ行ハル、經濟現象ノミナラス國家ト國家トノ間ニ行ハル、經濟現象ヲモ說クモノナリ而シテ國家ノ財政ヲ論スルハ實ニ經濟學ノ一小部分タルニ過キサルナリ斯ノ如ク狹隘ニ解釋セラル、ノ恐レアル名辭ヲ以テ之ヲ全體ニ當テ悵メントスルハ是レ學問上力メテ避ケサルヘカラサル所ナリ故ニ國家經濟學ヲフ新規ノ語ハ全ク之ヲ用ヒスシテ古來ノ習慣ニ從ヒ別ニ差支ナキ經濟學ヲフ名辭ヲ用フルコソ最モ得策ナレ

註 國家經濟學ヲフ新規ノ名辭ヲ用フルニ及ハサルハ古來用ヒ來タル經濟學ヲフ名辭ヲ以テ充分ニ斯學ノ意義ヲ言ヒ表スコトヲ得ルノミナラス國家ヲフ文字ヲ冠スルトキハ却テ經濟學ノ範圍ヲ狹隘ナラシムルノ恐アレハナリ加之我學問界ニハ必要止ムヲ得サル新語ノ續出ヲ免ラサルニ當リテ故ラニ無用ノ新語ヲ用フルニハ及ハサルヘシ且國家經濟學ト云ヘハ其ノ範圍前ニ述フルカ如ク單ニ經濟學ト云フヨリモ斯學ノ正當ニ論スヘキ範圍ヨリモ

窮屈ナルカ如ク解セラハルルノ恐レアリ即チ國家テフ文字アルカ故ニ單ニ一國內ノ經濟現象ヲ論スルモノナルカ又ハ國家財政ノ事ノミヲ論スルカノ如ク聞エ或ハ國家主義ニ基ク所ノ經濟學ノミヲ意味スルカ如クニモ聞エ然ルニ經濟學ニ於テ攻究スヘキ事項ハ元來一國內ノ經濟現象若クハ國家財政ノミニ止マラス汎ク社會ノ經濟現象ヲ攻究スルモノナリ又國家主義ニ基ク所ノ經濟學ノミカ經濟學タルニ非ス個人主義ヲ基本トシテ論スル所ノモノモ亦經濟學ニ相違ナキナリ斯ク狹隘ニ解セラハルルノ恐アル名稱ヲ新ニ用ヒンヨリハ却テ從來ノ用語法ニ從フノ優レルニ如カサルナリ

此點ヨリシテ予ハ理財學ヲフ名辭ヲモ採ラサルナリ其故ハ第一此名辭ハ本邦ニ於テ舊來慣用スル所ニ非ス近年ニ至リ始メテ世ニ出ラタルモノナレハ未タ其ノ意義ヲ知ラサル者多キニ在リ

第二理財ノ熟語ハ其意義稍狹隘ニシテ財政ト曰フニ同キカ如シ是レ吾人カ往往松方大藏大臣ノ理財其ノ宜シキヲ得タリトカ大隈伯ノ理財術等ノ語ヲ聞ク故ナリ且夫レ「財者人所寶也」トハ說文ニ在ル所ナリ徐氏筆精ニハ「可入用者

也又穀也」ト曰ヒ玉篇ニハ「納財謂食穀也貨也賂也」ト說キ易ノ繫辭ニハ「何以聚人曰財」トアリテ註ニ「財所以資物生也」トアリ禮坊記ノ註ニ「財幣帛也」トアリ禮記ニハ「財物也各是土地之物」ト註セリ左レハ「財トハ人ノ欲望ヲ滿タスニ足ル材料ナルヤ明カナリ

又理字ノ意ハ玉篇ニ「正也道也文也」トアリ中庸ノ朱註ニ「理條理也」トアリ左レハ「理トハ法則ノコトニ相違ナシ故ニ財理ト曰フトキハ財ニ關スル法則ナルヘケレハ英語ノ「ボリチカル」エゴノミ」ヲ譯シテ理財學ト曰ハンヨリモ寧ロ「財理學ト曰フ方餘ニ優レリ

註 以上舉ケタル財字及ヒ理字ノ意義ヨリ考フレハ理財學ト曰ハンヨリモ理財學ト曰フ方寧ロ正確ナリト謂ハサルヲ得ス

加之理ノ字ハ法則ノコトヲ指セトモ又理財ト曰フカ如キ場合ニ於テハ動詞ト爲リ治ムルト曰フヲ以テ其本義ナリトス唐人ノ文ニ「治ノ字ヲ用ンヘキ所ニ皆理ノ字ヲ換用セリ是レ高宗ノ諱ヲ避ケタレハナリ

註 理ノ字ハ法則ノ意義ニ相違ナキモ支那ニテハ理財ト曰フトキハ理ノ字

ノ動詞ト爲ル而シテ唐ノ時代ニ於テハ治ノ字ヲ用フヘキ所ニ理ノ字ヲ用ヒ
タリ是レ畢竟唐ノ高宗ノ諱ヲ避ケタルニ因ルモノナリ

此等ノ事例ニ據ルモ理ノ字ハ治ノ字ニ換用スヘキ字ナルコトヲ知ルヘシ勿論
理財ノ熟說唐以前ニ出タルモノナレトモ理財ハ治財ノ意義ナルコト更ニ疑フ
ヘクモ非ス又以テ理財學トハ寧ロ財政學ニ當ルヲ知ルヘキナリ

註 理財學ト云ヘハ財ヲ治ムルノ學即チ財政學ト混スルノ點レアリテ到底

經濟學ト同一ノ範圍ヲ言ヒ表スニ足ラス故ニ予ハ之ヲ探ラサルナリ

理財學ノ熟語ハ頗ル適當ナリト雖モ古來慣例シ來リテ別ニ不都合ヲ感セサレ
ハ殊更ニ新規ヲ選ハレヨリモ寧ロ經濟學ト曰フヲ以テ適當ナリト信ス若シ強
ヒテ新規ノ名辭ヲ用ヒント欲セハ寧ロ國民經濟學若クハ社會經濟學ト名クル
方餘ニ適當ナラン予ノ如キハ後者ヲ最モ適當ナリト考フレトモ故ラニ新規ヲ
欲セサレハ單ニ經濟學ト稱スルヲ以テ足レリト爲スモノナリ

註 若シ新ニ經濟學ニ代フヘキ名稱ヲ用ヒント欲セハ斯學ヲ稱シテ國民
經濟學又ハ社會經濟學ト曰フヲ可トス國民經濟學ト云ヘハ國民ト國民トノ

キモノト觀ルヘキカノ問題アリ舊商法ハ此點ニ付テ毫モ規定スル所ナシト雖
モ外國ニ於テハ大ニ議論アル問題ニシテ各國ノ法制ニ於テモ特ニ之カ明文ヲ
存スルモノアリ新商法ニ於テモ亦之ヲ明定セリ即チ第十四條ニ曰ク

登記ハ其公告ト抵觸スルトキト雖モ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得
ト即チ登記ト公告ト相合ハサルトキハ寧ロ登記ニ依ルノ主義ヲ採リシモノニ
シテ是レ固ヨリ至當ノ事ナリトス何トナレハ登記ハ本ニシテ公告ハ末ナリ登
記ハ當事者ノ申請書ニ依リテ之ヲ記載スルモノナルカ故ニ通常誤謬少ナカル
ヘシト雖モ公告ハ更ニ登記ヲ謄寫シテ之ヲ爲スモノナルカ故ニ比較的誤謬多
ク又公告ハ一時ノモノナリト雖モ登記ハ永ク存在スルモノナルカ故ニ之ヲ爲
スニ當リテ自ラ其注意ノ度ヲ異ニスルハ勢ノ然ラシムル所ナレハナリ即チ新
商法ニ於テハ此等ノ理由ヨリシテ登記ヲ以テ正シキモノト看做スラ穩當ナリ
トシ議論ノ末右ノ如ク一定シタリ尙ホ此他登記ノ効力ニ關シテハ舊法典ニ比
シテ新法典ハ一層明了ニ之ヲ規定セリ此等ハ一々説明スルノ要ナシト雖モ此
ニ一言注意スヘキハ新法典ニ於テ特ニ支店登記ノ制裁ヲ規定シタルコトナリ

トス即チ第十三條ニ曰ク

支店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ヲ登記セサリシトキハ前條ノ規定ハ其支店ニ於テ爲シタル取引ニ付テノミ之ヲ適用ス

ト要スルニ登記セサリシ事項ハ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス(唯一二ノ例外アリ)トノ規定ニ外ナラス而シテ是亦商業登記ノ規定ニ關スル改良ノ一點ナリトス

次ニ變更消滅ノ登記ニ關シテモ舊商法ニハ一旦登記シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其事項ノ消滅シタル場合ニ於テ其登記ハ如何ニスヘキカ更ニ規定スル所ナク單ニ變更登記ニ付テ第二十一條第二項ノ規定アルノミ曰ク登記ノ變更又ハ取消ニ付テモ亦前項ニ同シト即チ前項ニ於テハ若シ裁判所ニ於テ登記ヲ拒ミタルトキハ當事者ヨリ其命令ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得トアリ而シテ他ニ變更登記消滅登記ニ關シテハ一モ規定スル所ナシ是レ全ク翻譯ノ誤リニシテ「ロエスレル氏」ノ草案ニハ恰モ第二十一條ノ第二項ニ該當スル場所ニ於テ以上ノ規定ハ變更登記又ハ消滅登記ニモ適用スル旨ヲ記シ而シテ特ニ之ヲ

別條ト爲スコトヲ忘却シタル爲メ翻譯ヲ爲ス者ハ其儘右第二十一條第二項ニ之ヲ置キシニ外ナラス抑モ登記ハ何ノ爲メニ之ヲ爲スカ廣ク第三者ヲシテ其事項ヲ知ラシムルカ爲メニ非スヤ然ルニ其事項ニシテ既ニ變更シ又ハ消滅セラルニ拘ラス其變更消滅ヲ登記セサルトキハ却テ人ヲ欺クノ具ト爲リ了ランノミ故ニ苟モ其事項ヲ登記セシムル以上ハ其事項ニ變更ヲ生シ又ハ其事項ノ消滅シタルトキハ等シク之ヲ登記セシムルニアラサレハ登記ノ目的ヲ達スルコトヲ得ス是ヲ以テ新商法ハ其第十五條ヲ以テ左ノ如ク規定セリ

登記シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其事項ヲ消滅シタルトキハ當事者ハ遲滞ナク變更又ハ消滅ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

舊商法中ニ於テモ事項ニ因リテハ變更消滅ノ登記ヲ規定スルモノナキニアラスト雖モ是レ極メテ稀有ニシテ多クノ場合ニ付テ何等ノ規定ナク現ニ株式會社等ニ關シ變更登記ハ原則トシテハ之ヲ爲サスシテ可ナルモノトセリ新商法ニ於テハ此第十五條ノ通則ノミヲ以テ未タ足レリトセス各事項ニ付テ特別ノ規定ヲ設クルモノ多シ然レトモ此ニハ一說明セス

第五章 商號

商號ニ關スル規定ニ付テモ新商法ハ舊商法ト稍ヤ異レリ先ツ

第一ニ異ナル所ハ商號ニ用フル名稱ノ事ナリ舊商法ニ依レハ商號ハ從來屋號ト稱スルモノヲ以テスルヲ本則トシ唯其營業者ノ氏名ヲ用フルモ妨ナシトセラルカ故ニ其結果トシテ屋號ニアラサレハ氏又ハ氏名タラサルヘカラス而シテ其屋號ノ定義ニ付テモ多少ノ疑アリシカ今回ハ全然此ノ如キ制限ヲ廢シ如何ナル名稱ト雖モ之ヲ商號ト爲スコトヲ許シ唯其著シキモノヲ例示シテ氏氏名其他ノ名稱トセリ故ニ屋號タルト堂號タルト又符牒タルトヲ問ハス總テ之ヲ商號トスルニ於テ毫モ妨ナシ例ヘハ九一金十ノ如キ名稱ヲ用フルモ可ナリ然ルト雖モ本來名稱トシテ視ルコトヲ得サルモノハ之ヲ商號ト爲スコトヲ得サルカ故ニ例ヘハ○㊦ト云フカ如キ徽號ヲ以テ商號ト爲スコトヲ得ス又山十ト稱スル場合ニ於テモ山ノ字ト十ノ字トヲ用フルハ可ナリト雖モ之ヲ變シテ令トスルニ至リテハ既ニ名稱ノ性質ヲ失ヒ隨テ商號タルコトヲ得ス要スルニ名稱

タルト否トニ因リテ之ヲ區別スルニ在リ是レ一ノ改良ナリトス

商號ニ用フル名稱ニ付テハ實ニ一己人ノ場合ノミナラス會社ノ商號ニ付テモ亦之ヲ自由ニセリ舊商法ニ於テハ合名會社ニ付テハ「社名ニハ總社員又ハ其一人若クハ數人ノ氏ヲ用非之ニ會社ナル文字ヲ附ス可シ」ト規定シ合資會社ニ付テハ「社名ニハ社員ノ氏ヲ用ユルコトヲ得ス但無限責任社員ノ氏ハ此限ニ在ラズ又社名ニハ何レノ場合ニ於テモ合資會社ナル文字ヲ附ス可シ」而シテ株式會社ニ付テハ「社名ニハ株主ノ氏ヲ用ユルコトヲ得ス又社名ニハ株式會社ナル文字ヲ附ス可シ」トアリシカ故ニ太タシキ制限ヲ受ケタリト雖モ今回ハ全ク此ノ如キ制限ヲ廢セリ抑モ會社ノ種類ニ因リテ社員ノ氏ヲ用フルト否トヲ區別スル舊商法ノ如キ規定ハ西洋ニ於テハ古來ノ慣習上甚タ必要ナル事項ニ屬ス今其沿革ヲ尋ヌルニ合名會社ハ其初メ法人ニアラスシテ一ノ組合ナリシ隨テ契約其他ノ書面ニ署名スルニ方リテモ各自ニ之ヲ爲シシカ合名會社ノ制度漸次擴張セラレテ法人類似ノモノト爲リ尙ホ進ンテ遂ニ純然タル法人ト認メラル、ニ及ヒ西洋ノ慣習上他人ノ氏名ヲ代書スルハ日本ノ僞印ニ相當スル所爲ノ如

ク思惟スルニ拘ラス此合名會社ニ付テハ法人若クハ法人類似ノモノト看做ス
ノ結果例ヘハ二人ノ合名會社ナルトキハ其兩人ノ名ヲ接合シテ商號ト爲シ而
シテ其商號ハ甲之ヲ署スルモ乙之ヲ署スルモ慣習上之ヲ有効ト認ムルニ至レ
リ然ルニ此慣習ハ單ニ社員ノ二人ノミニ止マルトキハ敢テ妨ナシト雖モ三人
四人乃至數人ノ多キニ及フトキハ甚タ不便ナルカ故ニ遂ニ便宜上何某及ヒ會
社ト稱スルニ至レリ即チ社員中最モ信用アルモノノ名ヲ表シ餘ハ及ヒ會社ナ
ル文字ヲ以テ之ニ代フルニ至リシナリ西洋ニ於テハ實ニ此ノ如キ沿革アルカ
故ニ合名會社ハ即チ名ヲ合スル會社ニシテ名ヲ合セタル會社ハ合名會社タル
コト一目瞭然タルモノナリ唯英國ノ制度ハ少シク異ル所アリ(寧ロ彼國ニ於テ
ハ純然タル合名會社ナシト雖モ伊太利ニ於テモ佛蘭西ニ於テモ乃至獨逸ニ於
テモ合名會社ハ少クトモ一人ノ氏名ヲ表示シ而シテ之ニ及ヒ會社ノ文字ヲ添
フルヲ例トシ若シ單ニ二人ニ止マルトキハ必ス「某及ヒ某ト稱スルニ一定セリ
而シテ此慣習ハ數百年來ノ慣行ニ因リテ定マリタルモノニシテ若シ他ノ種類
ノ會社ニ類似ノ名稱ヲ用フルトキハ直ニ混雜ヲ來スカ故ニ「某及ヒ會社」トアル

カ又ハ「某及ヒ某ト稱スルハ合名會社ニ限リ合資會社若クハ株式會社ニ此ノ如キ
文字ヲ用フルコトヲ許サ、ルナリ尙ホ煩ヲ避ケテ之ヲ省キシカ合資會社ト雖モ
無限責任社員ハ社名ニ其氏ヲ用ヒテ可ナリ而シテ其名ヲ表セルモノハ當然無限
責任社員タルノ結果ヲ生ス此點ニ付テハ株式會社ト雖モ株式合資會社ニ付テハ
同一ナリ然レトモ日本ニ於テハ固ヨリ此ノ如キ慣習アルコトナク舊商法施行
前ニ於テハ各自隨意ノ名ヲ附シ商法ノ規定ニ依レハ合名會社タルヘキモノト
雖モ例ヘハ日就社ノ如キ名ヲ附シ而シテ合資會社ナルモノハ舊商法施行ノ後
ニ生シタルモノナリト雖モ其以前ニ於ケル合資會社ニ酷似シタル會社ノ如キ
モ大抵人ノ氏名ヲ用ヒス此ノ如キ有様ニシテ歐洲ノ如キ沿革更ニナシ然ルニ
舊商法施行後俄ニ社員ノ氏ヲ用フルコト「セシハ甚タ謂ハレナキコトナリト
ス且ツ單ニ一人ノ氏ヲ用フルノミナラハ大倉合名會社又ハ澁澤合名會社ト云
フカ如ク敢テ奇怪ナラスト雖モ若シ二人以上ノ名ヲ用ヒ澁澤大倉合名會社ナ
トト稱スルニ至リテハ日本人ノ感覺上實ニ奇怪千萬ナリト謂ハサルヘカラス
尤モ會社ニ因リテ二人若クハ三人ニシテ同額ノ資本ヲ出シ且ツ其世間ニ對ス

ル信用モ畧ホ同一ナル場合ニ於テハ抽籤ヲ以テ其氏ヲ表示スル者ヲ定ムレハ可ナリト雖モ若シ單ニ其一人ノ名ヲ表示スルトキハ各社員ノ感覺ニ於テ不快ナルコトナシトセス加之伊太利ノ昔ニ於ケル如ク合名會社ノ性質未タ一定セズ唯慣習上漠然ト定マリシ時代ニ於テハ此ノ如ク社員ノ名ヲ表示スルコト或ハ必要ナリシト雖モ今日ニ於テハ合名會社ノ如何ナルモノナルカハ商法ニ於テ判然タル詳細ノ規定アリ又社員ノ何人タルコトモ登記ニ依リテ容易ニ之ヲ知ルコトヲ得ヘク又會社ニ就キテ之ヲ聽クモ定款等ニ依リテ何人ノ社員タルカハ一目瞭然タルカ故ニ必シモ商號ニ社員ノ名ヲ掲グル必要ナシ故ニ今回ハ此ノ如キ束縛ヲ全ク解除セリ隨テ合資會社株式會社等ニ在リテモ人ノ氏名ヲ之ニ冠スルコトヲ妨ケサルナリ恰モ舊商施行ノ際即チ舊商法會社ノ部分ノ施行セラレタル當時問題ト爲リシ事項ハ例ヘハ吉佐移民會社ナルモノアリ此會社ハ合名會社ナルモ假ニ之ヲ株式會社トセハ如何此吉佐ナル名ノ出所ヲ聞クニ吉川、佐久間ト云ヘル二人ノ氏ヲ合併省略シタルモノニシテ此會社ハ吉川、佐久間ノ設立ニ係ルモノナルカ故ニ吉佐移民會社ト稱セシナリト云フ若シ株式

其行爲ハ即チ自己ノ營業トシテ爲スモノナリ換言スレハ商業使用人ハ獨立ノ商業主體ニアラサルモ代理商ハ全ク獨立ノ營業者即チ商人ナリトス其結果トシテ商業使用人ハ一旦委任終了スルトキハ全ク營業機關タルノ資格ヲ失フモ代理人ニ在リテハ縱令其委任關係ヲ解クモ商人タルノ身分ハ依然トシテ變スルコトナシ

第二 代理商ノ義務

代理商カ善良ナル管理人ノ注意ヲ以テ事務ヲ處理セサルヘカラサルコト其他代理商カ受任者トシテ負擔スヘキ義務例ヘハ事務ニ關スル報告ヲ爲ス義務、委任者ノ指圖ニ從フヘキ義務、計算報告ヲ作ルヘキ義務、受取リタル金錢其他ノ物ヲ引渡スヘキ義務等ハ一切之ヲ民法ニ讓レリ只特ニ商法ニ規定スル必要アリト認メラレタル代理商ノ義務ハ左ノ二個ナリトス

(一)代理又ハ媒介ヲ爲シタル毎ニ遲滞ナク之ヲ本人ニ通知スルノ義務(第三七條) 民法第六百四十五條ハ受任者ハ委任者ノ請求アル時ハ委任事務處理ノ狀況ヲ報告シ又終了ノ後ハ其顛末ヲ報告スルヲ要ストセリ然レトモ代理商ノ如ク連續シテ或種類ノ行爲ヲ爲スヘキ委任ヲ受クル者ニ在リテハ一々本人ノ請求ニ

因リテ始メテ事務報告ヲ爲サシムルハ甚タ不便ナルヲ以テ法律ハ代理商ニ一行爲アリタル毎ニ之ヲ報告セシムル義務ヲ負ハシメタルナリ

(二)本人ノ許諾アルニアラサレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ本人ノ營業部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得サル義務(第三八條)

商法ハ支配人ニ關シテ略ホ之ト同一様ノ規定ヲ設ケタリ(第三二條然レトモ立法上ノ精神ヲ尋スルトキハ彼ト此トハ大ニ其理由ヲ異ニスルモノナリ今兩條ヲ對照スルニ第三十二條ニ於テハ一切ノ商行爲ヲ爲スコト又一切ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ禁制セルモ本條ハ單ニ本人ノ營業部類ニ屬スル商行爲又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得サルニ止メタリ是等差違ノ存スル所以ハ支配人ト本人トノ間ニハ主從ノ關係ヲ有スルモノナレハ其全力ヲ竭ケテ主人ノ營業ニ盡力セサルヘカラス何ノ暇アリテ他ノ商行爲ヲ爲シ又他ノ會社ノ無限責任社員トシテ其責任ヲ完ウスルヲ得ンヤ是レ支配人ニ對スル禁止ノ廣大ナル所以ナリ然レトモ代理商ニ在リテハ事情之

ニ反シテ大ニ斟酌スヘキモノアリ代理商モ又本人ノ商業機關ナレハ固ヨリ之カ爲メニ十二分ノ周旋ト盡力トヲ辭スルコトヲ許サスト雖モ代理商モ亦一個ノ商人ナリ代理又ハ媒介ヲ爲スヲ業トスル者ナリ一人ノ委任者ノ爲メニ全力ヲ盡スコトヲ得ス故ニ法律ハ本人ノ利益ヲ保護スルト同時ニ又此代理商ノ利益ヲ保護セサルヘカラス而シテ一人ノ委任者ノ爲メニ全力ヲ盡ス能ハサル性質アルカ故ニ一切ノ自己又ハ第三者ノ爲メニスル行爲ヲ禁スルハ本人ノ望ム可カラサル所ナリ然レトモ各委任者ノ爲メニ或種類ノ行爲ヲ委任セラル、者ナルヲ以テ同種類ニ屬スル行爲ヲ同時ニ自己又ハ第三者ノ爲メニスルハ利益ノ衝突ヲ來スヲ以テ本人ノ爲メニ誠實ヲ欠クノ恐ナシトセズ是レ第三十八條ノ規定カ第三十二條ト異ナル所以ニシテ要スルニ第三十八條ハ單ニ本人ト代理商トノ利害ノ衝突ヲ防クヘキ限度ニ止メ適當ニ兩者ノ利益ヲ保護セントスル趣旨ニ基クモノナリ

代理商ニシテ第三十八條ノ禁制ヲ犯シタル時ハ第三十二條第二項及第三項ヲ準用シテ代理商カ自己ノ爲メニ商行爲ヲ爲シタルトキハ本人ハ之ヲ自己ノ爲メニ

志田氏商法要義

全紙版約二千五百頁
全部金五圓遞送費不要
第一零號則編八月十五日
發行金四十錢

[illegible]

法學通論

全一冊
紙數約八百頁
金貳圓
校友生校外生限
特別割引ヲ以テ壹圓六十錢
九月十日發行

[illegible]

發行所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

和佛法律學校

爲シタルモノト看做スコトヲ得其損害賠償ヲ請求スルコトヲ得ルハ民法規定ニ依リテ明ナリ獨逸新商法ノ草案ニハ損害賠償ニ依ル救済方法ノミヲ認メタリ蓋シ代理商モ亦商人ナレハ其者ノ爲シタル行爲ヲ自己ノ爲メニ爲シタルモノトスル權能ヲ本人ニ與フルハ干涉ニ過キタリトセルナリ然ルニ法案確定ノ際ニ至リテ代理商ニ關シテハ我商法第三十八條ノ如キ制限ヲ一切撤去シタリ是レ蓋シ獨逸ニ於テハ此種ノ營業發達シテ其商慣習上自ラ定マルモノアルカ爲メカ

第三 代理商ノ本人ニ對スル權利

代理商ノ本人ニ對スル權利モ又民法ニ依リテ定マルヘキモノトス唯一ノ特例ヲ設ケタルハ新商法第四十一條ナリ

同條ニ依レハ代理商ハ商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルニ因リテ生シタル債權ニ付本人ノ爲メニ占有スル物ニ對シテ一種ノ留置權ヲ有スルモノトシテ其債權カ占有物ニ關係アルト否トヲ問ハサルナリ抑モ民法第二編第二百九十五條ニ依レハ留置權者ハ其占有物ニ關シテ生シタル債權ニ付其物ヲ留置スル權アリトモ其占有物ニ關係ナキ債權ニ付テハ留置權ヲ認メサルナリ然ルニ代理商

志田氏商法要義

全紙數約二千五百頁
全部金五圓遞送費不要
第一卷總編八月十五日
發行金四十錢

新商法研究ノ急務タルハ更ニ言フヲ待タズ世間之カ註釋書ニシテ足ラズト雖モ概ネ一時ノ急當リ或ハ法科大學ニ或ハ高等商業學校ニ其他法典調查會起草委員補助シテ親シク商法ヲ纂集ノ事ニ多年研究ノ餘ニ成レル一大著述ニシテ坊間ノ書ト固ヨリ同日ニシテ論スヘカラサルナリ行文謹嚴類ナキ商法註釋書ナリトス

法學士 岡村 司君著

法學通論

全紙數約八百頁
全部金五圓遞送費不要
特別割引ヲ以テ壹圓六十錢
九月十日發行

法律ヲ學ハントスル者ハ先ツ法律全般ニ通スル法理ノ概念ヲ養ハサルヘカラス是レ特ニ法學通論ノ必要アル所以ナリ本書ハ過般ニ選拔ヲ以テ歐洲留學ノ途ニ就カレタル陸軍教授法科大學講師岡村法學士カ歐洲最近ノ學說ニ基キ兼テ自家新見解ニ據リ多年研究ノ餘始メテ公ニセラルモノニシテ從來世間ニ行ハル所謂法學通論ナルモノト全ク其趣ヲ異ニセリ法學通論ニ於ケル岡村氏ノ眞價ハ世に定評アリ速ニ購讀セラレシムコトヲ請フ

發行所 東京市麹町區富士見 町六丁目十六番地 和佛法律學校

明治三十二年九月九日印刷
明治三十二年九月十日發行

編輯者 東京市四谷區四谷町三丁目六番地
小田幹治郎

印刷者 東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地
金子鐵五郎

印刷所 東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地
金子活版所

發行所 司法省
指定 和佛法律學校

所在 東京市麴町區富士見
町六丁目十六番地

電話 (番町百七十四番)

明治廿二年十二月九日內務省許可

送金券 注意

本號ニ添附シタル送金券ハ校外生
月謝拂込ノ際各欄内ヘ相當ノ記入
ヲ爲シ送金ト共ニ必ス送付可相成
候也
若シ本券ノ添送ナキトキハ事務取
扱上混雜ヲ來シ講義錄發送上遲延
ノ恐れアリ
尙ホ今後ハ各號發送ノ際又ハ同時
ニ畝葉送呈スヘキニ付キ爾後ハ必
ス右ノ手數ヲ煩シ度候也